

**【表紙】**

**【提出書類】** 有価証券報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条第1項

**【提出先】** 近畿財務局長

**【提出日】** 平成24年6月29日

**【事業年度】** 第63期(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

**【会社名】** 大阪工機株式会社

**【英訳名】** O S A K A K O H K I C O . , L T D .

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 柳川 重昌

**【本店の所在の場所】** 大阪府中央区安堂寺町一丁目6番7号

**【電話番号】** 06(6765)8201(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役管理本部長兼経理部長 南 雄治

**【最寄りの連絡場所】** 大阪府中央区安堂寺町一丁目6番7号

**【電話番号】** 06(6765)8201(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役管理本部長兼経理部長 南 雄治

**【縦覧に供する場所】** 株式会社大阪証券取引所  
(大阪府中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第59期	第60期	第61期	第62期	第63期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
売上高 (千円)	-	-	10,385,144	13,573,775	14,900,633
経常利益 (千円)	-	-	29,517	340,717	474,824
当期純利益 (千円)	-	-	9,271	153,032	224,899
包括利益 (千円)	-	-	-	143,842	226,367
純資産額 (千円)	-	-	2,364,582	2,492,885	3,315,692
総資産額 (千円)	-	-	7,510,647	8,541,608	9,135,033
1株当たり純資産額 (円)	-	-	946.01	997.72	962.20
1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	3.72	61.54	87.84
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	-	-	31.3	29.0	36.2
自己資本利益率 (%)	-	-	0.4	6.3	7.8
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	7.5
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	-	193,683	164,603	65,725
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	-	70,962	67,333	61,106
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	-	820,299	294,120	346,411
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	-	-	730,090	525,928	743,688
従業員数 (人)	-	-	204	205	226
〔ほか、平均臨時雇用人員〕	〔 - 〕	〔 - 〕	〔 7 〕	〔 23 〕	〔 24 〕

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 当社は、第61期より連結財務諸表を作成しております。

3 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 第62期までの株価収益率は、当社株式が非上場であるため記載しておりません。

5 第61期以降の連結財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任 あずさ監査法人の監査を受けております。

6 当社は、平成23年11月26日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っており、第61期及び第62期の1株当たり純資産額並びに1株当たり当期純利益金額は、遡及処理後の数値を記載しております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第59期	第60期	第61期	第62期	第63期
決算年月	平成20年 3月	平成21年 3月	平成22年 3月	平成23年 3月	平成24年 3月
売上高 (千円)	14,550,210	12,806,334	9,513,371	12,611,072	13,923,530
経常利益 (千円)	397,018	115,356	40,208	333,238	419,366
当期純利益 (千円)	229,980	44,099	23,240	168,509	187,355
資本金 (千円)	40,790	40,790	40,790	40,790	350,198
発行済株式総数 (株)	621,580	621,580	621,580	621,580	3,434,420
純資産額 (千円)	2,243,405	2,241,637	2,257,591	2,418,110	3,207,740
総資産額 (千円)	8,594,649	7,907,733	7,232,183	8,408,111	8,928,569
1株当たり純資産額 (円)	902.29	901.58	908.00	972.56	933.99
1株当たり配当額 (円)	45.00	30.00	25.00	36.00	20.00
(1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	93.69	17.73	9.34	67.77	73.18
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	26.1	28.3	31.2	28.8	35.9
自己資本利益率 (%)	10.8	2.0	1.0	7.2	6.7
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	9.0
配当性向 (%)	12.0	42.3	66.9	13.3	27.3
従業員数 (人)	146	149	149	152	157
〔ほか、平均臨時雇用人員〕	〔21〕	〔23〕	〔5〕	〔20〕	〔24〕

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 第62期までの株価収益率は、当社株式が非上場であるため記載しておりません。

4 第61期以降の財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任 あずさ監査法人の監査を受けておりますが、第59期及び第60期の財務諸表については、当該監査を受けておりません。

5 当社は、平成23年11月26日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っており、第59期、第60期、第61期及び第62期の1株当たり純資産額並びに1株当たり当期純利益金額は、遡及処理後の数値を記載しております。

## 2 【沿革】

当社は、昭和20年に大阪府岸和田市上松町において、切削工具の販売を目的とする個人商店、中央機械工具商会として創業いたしました。

その後、昭和25年に現在の会社組織としての基礎となる、大阪工具株式会社を設立いたしました。

大阪工具株式会社設立以後の企業集団に係る経緯は、次のとおりであります。

年 月	概 要
昭和25年 5月	切削工具の販売を目的として、資本金45万円にて大阪工具株式会社を設立 (本社：大阪府岸和田市、大阪営業所：大阪市南区)
昭和29年10月	現所在地である大阪市南区(現 大阪市中央区)に本社を移転し、現社名(大阪工機株式会社)に改称
昭和53年 4月	関東地方における販売拠点として、東京都品川区に東京営業所を開設(現 東京支社)
昭和63年11月	中部地方における販売拠点として、名古屋市中区に名古屋営業所を開設(現 名古屋支店)
平成 3年 4月	九州地方における販売拠点として、北九州市小倉北区に九州営業所を開設(現 福岡支店 福岡市博多区)
平成 7年 9月	中国地方における販売力強化のため、山崎兄弟商会株式会社(広島市西区)を株式取得により子会社化(持分75% 平成13年4月に100%取得)
平成 7年12月	中国・四国地方における販売拠点として、広島市西区に広島営業所を開設(現 広島支店 広島市中区)
平成14年10月	タイにおける販売拠点として、バンコク市に連結子会社 DAIKOH(THAILAND)CO.,LTD. を設立
平成15年 7月	オンラインシステム「Cominix On-Line」による販売を開始
平成15年 8月	経営の効率化のため、山崎兄弟商会株式会社を吸収合併
平成17年 3月	関東地方における販売力強化のため、東京都品川区に連結子会社 株式会社CSTを設立
平成18年 3月	中国における販売拠点として、上海市に連結子会社 中阪貿易(上海)有限公司を設立
平成18年10月	物流機能拡大のため、大阪府東大阪市に大阪ロジスティクスセンターを開設
平成20年11月	フィリピンにおける販売拠点として、ピナン市にフィリピン駐在事務所を開設(平成22年10月 現 連結子会社 COMINIX(PHILIPPINES), INC.)
平成21年 2月	近畿地方における販売力強化のため、武和テック有限会社(大阪府吹田市 平成22年4月に株式会社化)を持分を取得し連結子会社化(持分100%)
平成21年 8月	ベトナムにおける販売拠点として、ハノイ市にベトナム駐在事務所を開設(平成23年12月 現 連結子会社 COMINIX VIETNAM CO.,LTD.)
平成22年10月	経営の効率化のため、連結子会社 武和テック株式会社を吸収合併
平成22年12月	経営の効率化のため、連結子会社 株式会社CSTを吸収合併
平成23年 2月	東日本への物流機能拡大のため、群馬県邑楽郡大泉町に北関東ロジスティクスセンターを開設
平成23年 8月	インドネシアにおける販売拠点として、プルワカルタ市に連結子会社 PT.COMINIX INDONESIAを設立
平成24年 3月	大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場

### 3 【事業の内容】

当社グループは、当社及び海外連結子会社（中阪貿易（上海）有限公司、DAIKOH（THAILAND）CO., LTD.、COMINIX（PHILIPPINES）, INC.、PT.COMINIX INDONESIA、COMINIX VIETNAM CO., LTD.）の計6社により構成されており、切削工具事業、耐摩工具事業、海外事業、光製品事業の4セグメントで事業展開しております。当社グループの主要取扱い商品及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けは次のとおりであります。

#### 切削工具事業

当事業では、自動車エンジン部品などの金属加工業者への超硬切削工具及び特殊鋼切削工具の販売を中心としており、その他に研削工具、保持工具、精密測定機器、工作機械等を販売しております。

当事業で取扱う切削工具は、自動車部品などの生産ラインの設備である工作機械に装着され、高精度に金属加工を行う先端の刃物として使用されております。そのために非常に硬度の高い超硬合金を原料として作られておりますが、金属加工を繰り返すうちに徐々に摩耗するため、加工精度を維持するためにも定期的な交換が必要とされます。しかし、製造ラインにおいては設備機械の稼働率アップや加工時間の効率化を重要課題としていることから、切削工具の長寿命化による性能向上や迅速かつ安定的な工具の供給体制構築が求められてきました。

当社では、住友電気工業株式会社のイゲタロイ（注1）をはじめとした、国内外の切削工具製造メーカーの多品種の商品ラインナップを取り揃え、当社ロジスティクスセンターからの即納体制を構築することにより、多くの切削工具製造メーカーの代理店となっております。国内に2箇所ある当社ロジスティクスセンターは、「Cominix On-Line」（注2）というインターネットWeb受注システムとも連動しており、登録した当社顧客はリアルタイムに当社在庫量を確認し発注することが可能で、迅速な発送体制となっております。

また、幅広い商品ラインナップとして、優れた性能を有するが国内では知名度の低い海外切削工具製造メーカーの商品を国内市場向けに輸入し販売することも手掛けております。

販売体制の特長としては、創業当時より直販部門と卸売部門の2部門体制を敷いております。

直販部門においては、切削工具の使用量が多い大手企業を中心に、当社の社員が対面による直接販売を行っており、顧客の設備機械に合わせた商品の提案やカスタム商品（注3）の対応を手掛けております。

卸売部門では、当社より切削工具を仕入れて販売する販売店網を経由して、切削工具を使用する国内の中小の金属加工業者を中心に商品を納入しております。

この2部門体制の結果、直販により得られる顧客の要求仕様に関する情報や卸売販売により得られる市場での価格や売れ筋商品情報は社内でも共有することができ、新しい用途の開拓や新商品投入への戦略に繋げることが可能となっております。

#### （注1）イゲタロイ

住友電線製造所（現 住友電気工業株式会社）が開発した超硬合金の名称であります。

#### （注2）Cominix On-Line

受注、在庫照会、手配、出荷などの業務を一括処理することで、業務の迅速化と効率化を可能とし、大阪ロジスティクスセンター（大阪府東大阪市）、北関東ロジスティクスセンター（群馬県邑楽郡大泉町）より当日出荷対応をしております。

#### （注3）カスタム商品

顧客の要求仕様に合わせてオーダーメイドで製作される工具であります。

#### 耐摩工具事業

当事業では、主に国内製缶業者向けに製缶工具等の耐摩工具の販売をしております。

耐摩工具とは、雄型と雌型の対となった工具の間に素材をはさみ、工具に強い力を加えることで素材を工具の形に成形する塑性加工において主に使用されております。

また、金属の圧延や引き抜き・剪断・鍛造・打抜き等でも使用され、耐摩工具は長時間の熱・圧力・摩擦に耐えて使用できることを要求されるカスタム商品であります。

主な顧客としては、ビールやジュース等の飲料容器缶業界をはじめ、化学繊維、自動車や通信機器、半導体など様々な業界の国内製造業者であります。

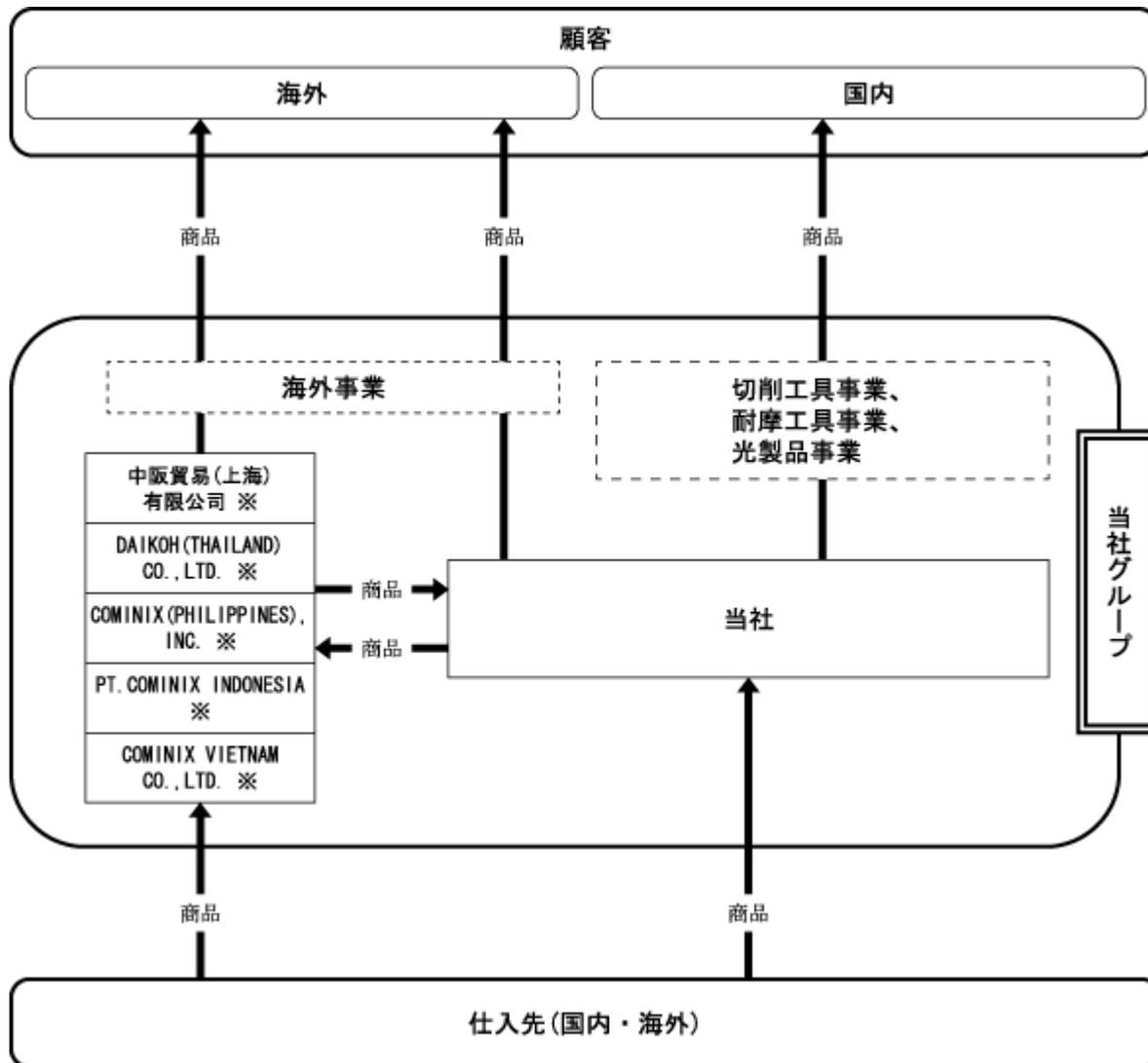
#### 海外事業

当事業では、当社並びに海外連結子会社の中阪貿易（上海）有限公司、DAIKOH（THAILAND）CO., LTD.、COMINIX（PHILIPPINES）, INC.、PT.COMINIX INDONESIA及びCOMINIX VIETNAM CO., LTD.において、中国やタイ、フィリピン、インドネシア、ベトナムなどの東南アジア諸国の海外顧客向けに切削工具、耐摩工具等の販売をしております。

光製品事業

当事業では、半導体、液晶、太陽電池向けの検査装置への搭載用として、光学部品、光源装置、光ファイバの販売を手掛けております。特に照明用光ファイバの販売の主要顧客となる業界は、外観検査装置製造を行う業界であります。同業界は、液晶ガラス、フィルム、半導体、葉の錠剤、飲料容器などの生産ラインにおいて製造中の製品の欠陥をCCDカメラで撮影し、生産ラインから欠陥品をはじくという検査装置を製造しており、当社はその検査装置に搭載する部品として、照明用光ファイバや光源装置を納入しております。

事業の系統図は、次のとおりであります。



※は、連結子会社を示しております。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) 中阪貿易(上海)有限公司 (注) 3	中国 上海市	5,000 千中国元	海外事業	100.0	役員の兼任 4名 商品の購入・販売 資金の貸付
DAIKOH(THAILAND)CO.,LTD. (注) 4	タイ バンコク市	6,000 千タイバーツ	海外事業	49.0 [10.0]	商品の購入・販売 資金の貸付
COMINIX(PHILIPPINES), INC.	フィリピン ビナン市	8,542 千フィリピン ペソ	海外事業	100.0	役員の兼任 2名 商品の販売
PT.COMINIX INDONESIA	インドネシア ブルワカルタ市	2,134,750 千インドネシア ルピア	海外事業	100.0	役員の兼任 3名 商品の販売
COMINIX VIETNAM CO.,LTD.	ベトナム ハノイ市	4,162,600 千ベトナムドン	海外事業	100.0	役員の兼任 3名 商品の販売

- (注) 1 主要な事業の内容欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。  
 2 議決権の所有割合欄の[外書]は、緊密な者等の所有割合であります。  
 3 特定子会社であります。  
 4 持分は100分の50以下ではありますが、実質的に支配しているため連結子会社としております。  
 5 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
切削工具事業	110 (3)
耐摩工具事業	14 (-)
海外事業	72 (-)
光製品事業	8 (-)
全社(共通)	22 (20)
合計	226 (24)

- (注) 1 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員であります。  
 2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。  
 3 臨時従業員には、アルバイト、パートタイマー及び派遣社員を含み、嘱託契約の従業員を除いております。  
 4 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

### (2) 提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
157 (24)	35.5	9.7	5,520

セグメントの名称	従業員数(人)
切削工具事業	110 (3)
耐摩工具事業	14 (-)
海外事業	3 (-)
光製品事業	8 (-)
全社(共通)	22 (20)
合計	157 (24)

- (注) 1 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員であります。  
 2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。  
 3 臨時従業員には、アルバイト、パートタイマー及び派遣社員を含み、嘱託契約の従業員を除いております。  
 4 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
 5 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

### (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておきませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、当初は東日本大震災の影響により多くの産業において生産活動が低下しましたが、下半期に入ると自動車業界などいくつかの産業においては生産活動が持ち直しました。しかし、欧州の金融不安、歴史的な円高水準による影響等もあり、依然として我が国経済の先行きは不透明であります。

このような環境のなか、当社グループは国内市場においては、ケナメタルグループのウイディア・ハニタブランド商品の国内代理店契約を締結し、取扱い商品の拡充を図りました。また、管理職向けの階層教育や営業員に対する商品研修を実施しており、特に重点販売メーカーであるワルター社及びセラティジット社の商品に注力して研修を実施することで、社員個々の能力の底上げを図りました。

海外市場においては、成長性の高いアジア地域への出店を進め、中国では連結子会社中阪貿易（上海）有限公司が重慶市と瀋陽市に事務所を開設し、インドネシアに連結子会社PT.COMINIX INDONESIA、ベトナムに連結子会社COMINIX VIETNAM CO.,LTD.をそれぞれ設立し、事業の拡大に努めました。

この結果、当連結会計年度の売上高は14,900,633千円（前連結会計年度比9.8%増）、営業利益は510,908千円（前連結会計年度比41.7%増）、経常利益は474,824千円（前連結会計年度比39.4%増）、当期純利益は224,899千円（前連結会計年度比47.0%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### 切削工具事業

切削工具事業につきましては、当初は東日本大震災の影響により、売上高は伸び悩んだものの、特に自動車関連の販売先を中心とした震災復旧需要があり、全体として売上高は上向き基調に推移いたしました。

この結果、売上高は10,480,232千円（前連結会計年度比9.1%増）、セグメント利益は343,613千円（前連結会計年度比77.8%増）となりました。

#### 耐摩工具事業

耐摩工具事業につきましては、食品容器業界の主要顧客の東北工場が東日本大震災で被災いたしました。その生産設備の復旧需要が継続しており、売上高は順調に推移いたしました。

この結果、売上高は2,338,781千円（前連結会計年度比9.1%増）、セグメント利益は219,123千円（前連結会計年度比32.7%増）となりました。

#### 海外事業

海外事業につきましては、売上高の拡大のため、成長性の高いアジア地域への出店を進めており、特に中国の連結子会社の成長が牽引いたしました。

中国政府は、リーマン・ショック後にインフラ整備や免税・補助金制度といった経済政策を打ち出しており、自動車・建機・通信・家電などの業界で予想以上の生産拡大へと繋がっております。

この結果、売上高は1,398,421千円（前連結会計年度比33.8%増）、セグメント損失は19,960千円（前連結会計年度は65,345千円のセグメント損失）となりました。

#### 光製品事業

光製品事業につきましては、当連結会計年度の受注を見込んでいた太陽光パネル製造装置メーカー向けのソーラーシミュレーターの受注が停滞したことにより商品の評価損を計上しました。また、既存顧客である液晶パネルや液晶用フィルムの検査装置メーカー向け工業用照明も、地デジ切り替え後の製造メーカーの業績悪化に伴い、売上高は減少いたしました。

この結果、売上高は683,196千円（前連結会計年度比12.4%減）、セグメント損失は31,152千円（前連結会計年度は68,080千円のセグメント利益）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ217,760千円増加し、743,688千円（前連結会計年度比41.4%増）となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、売上高の増加から税金等調整前当期純利益が前連結会計年度を上回り、売上債権の増加額及びたな卸資産の増加額は前連結会計年度を下回りましたが、一方で仕入債務が減少に転じたこと等から、前連結会計年度に比べて230,329千円減少し、65,725千円（前連結会計年度は164,603千円）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が前連結会計年度を下回ったこと等から、前連結会計年度に比べて6,226千円増加し、61,106千円（前連結会計年度は67,333千円）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金は減少に転じましたが、株式の発行による収入及び長期借入れによる収入があったこと等から、前連結会計年度に比べて640,532千円増加し、346,411千円（前連結会計年度は294,120千円）となりました。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

機械工具の販売を主たる事業としておりますので、生産実績はありません。

(2) 受注実績

受注実績については、販売実績と大差がないため、記載を省略しております。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
切削工具事業	10,480,232	109.1
耐摩工具事業	2,338,781	109.1
海外事業	1,398,421	133.8
光製品事業	683,196	87.6
合計	14,900,633	109.8

(注) 1 セグメント間取引については相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 3 【対処すべき課題】

当社グループは、切削工具を主たる販売商品として対面販売による営業活動を行い、国内外の製造業者の生産性の向上に寄与することで事業を拡大してまいりました。今後は、先行きに不透明感のある景況においても収益を確保していくため、以下の事項を当社グループの対処すべき課題として取組みを進めてまいります。

#### (1) 海外市場への展開

日本経済においては、リーマン・ショック以降は歴史的な水準の円高、東日本大震災もあり、取り巻く国内の製造業向けの経済環境はますます厳しさを増し、国内の製造業の国内生産の空洞化が懸念されております。

当社グループとしては、中国及びアジア諸国の新興成長市場を狙って海外展開を進める日系製造業の需要に対応するため、中国及び東南アジア諸国への海外展開を積極的に進めております。

国内販売で培った販売ノウハウや仕入先メーカーへの交渉力を使い、海外に現地法人を設立し、事業を進めてまいります。

#### (2) 営業活動の効率化

対面販売を基本とする営業活動を少しでも効率化するため、インターネットを利用したWEB販売システム「Cominix On-Line」を構築しております。このシステムの登録ユーザーは、システムにログインすることで24時間いつでも取扱い商品の在庫状況と購入価格の確認ができ、発注することができます。

今後も、このシステムの利用率を高めることで、営業活動の効率性を高めてまいります。

#### (3) 商品力の強化

当社グループは、国内市場で同業他社との競合がない、あるいは少ない商品を選定し、代理店として販売することを販売商品の差別化の基本的な方針としております。従って、同業他社との差別化を推し進めるために、今後も国内市場での販売基盤が少ないが競争力のある商品を製造するメーカーを探してまいります。

また、切削工具の製造メーカーが最終顧客に直販するケースや、他社メーカー品のOEM供給を受けることで幅広く販売するなど、製造メーカーも卸売業の範疇に入り込むケースが出ております。

卸売事業者が国内市場で国内メーカー商品を販売するだけでは商品力に限界があるため、当社独自の企画商品（プライベートブランド商品）として販売する動きも開始しております。

#### (4) 耐摩工具事業、光製品事業の育成

国内の切削工具の需要は、自動車市場が大きなウエイトを占めておりますが、自動車もエンジンからモーター搭載の電気自動車に切り替わると、切削加工は減少する可能性があります。

当社グループとしては、主力事業の切削工具販売以外の耐摩工具事業、光製品事業の育成も進めております。

#### (5) 社員教育

商社の競争力は社員の能力であるため、社員教育には力を入れており、豊富な知識を有することが、他社との差別化、競争力の源泉と考えております。当社では年間を通じて計画的に海外メーカーや専門研修機関による研修を実施しており、今後も営業担当者のスキル向上に努めてまいります。

#### (6) 切削工具卸売業界の再編

製造業の海外移転は加速しており、国内市場の大きな成長が期待できなくなっており、当社グループの所属する業界は再編の動きが出る可能性があります。当社グループもシェア拡大を目指し、時にはM & Aにも備えて積極的に再編に動けるよう、自己資本比率を高め財務体質の強化を進めてまいります。

#### 4 【事業等のリスク】

本書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

##### (1) 業績変動リスク

当社グループの主要販売商品である切削工具は、自動車業界が主要なユーザーであり、当社グループの業績は同業界の設備投資動向及び生産動向に強く影響を受けております。

従って、今後の同業界の業況変化による商品需要の大幅な変動が、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

##### (2) 金利変動リスク

当社グループの有利子負債には、変動金利条件となっているものがあります。当社グループでは、金利変動リスクを回避する目的で、有利子負債の短期から長期への転換や金利スワップ取引を利用しておりますが、今後金利が上昇した場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

##### (3) 取引先与信のリスク

当社グループは、与信管理の徹底を図り、不良債権発生 of 未然防止に努めておりますが、今後の景気動向等によっては想定を超える取引先の信用状態の悪化等が生じる可能性があり、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

##### (4) 商品在庫に関するリスク

当社グループは、特に切削工具については多品種の在庫を有しており、お客様への即納体制を確立しています。今後、市況の変化によっては過剰在庫となり商品評価損が発生し、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

##### (5) 災害・事故によるリスク

地震等の自然災害や人災・事故などにより、当社グループ及び取引先の営業拠点や従業員が被害を受ける可能性があります。これに伴う売上高の減少、物流機能の麻痺、営業拠点の修復又は代替のための費用発生等が、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

##### (6) 仕入先に係る代理店契約の解消・終了に関するリスク

当社は住友電気工業株式会社と特約販売契約を締結しております。当社は同社と昭和29年8月に特約販売契約を締結し、同社が製造する切削工具等を中心に事業を展開してまいりました。当該契約書には対象となる製品、販売地域、支払方法及び解除事由等が記載されております。

現在、当社と同社とは良好な関係にあるものと認識しておりますが、当社と同社との関係に変化が生じた場合、あるいは同社の特約販売戦略や特約販売店各社に対する諸条件もしくは当社に対する戦略が変更された場合等には、上記特約販売契約の内容等に変更の可能性があり、その場合、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

また、現時点では解除事由を含めて当該契約の継続に支障を来す要因は発生しておりませんが、当該契約の継続に支障を来す要因が発生した場合には、事業活動に影響を与える可能性があります。

##### (7) 海外事業に関するリスク

当社グループは積極的に海外での事業展開を図っておりますが、進出しております各国における市場動向、競合会社の存在、政治、経済、法律、為替などのリスクによって、今後の事業戦略や当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

また海外取引の拡大に伴い、税率、関税などの監督当局による新たな規制などにより損失や費用負担が増大する恐れがあり、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

##### (8) 為替変動によるリスク

当社は外貨建てによる輸出入取引を行っておりますので、大幅な為替変動が生じた場合には、当社の経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。また、当社グループは海外に現地法人を有しており、外貨建ての財務諸表を作成しておりますので、連結財務諸表の作成にあたっては、これらを日本円に換算する際の為替レート変動に伴う換算リスクがあります。

##### (9) 退職給付債務に関するリスク

当社では確定給付型の退職金制度を採用し、一部を確定給付企業年金制度で運用しておりますので、当社の年金資産の時価下落や、退職給付債務を計算する前提条件の変更などが、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

##### (10) システム障害の発生によるリスク

当社では販売チャネルの一つとしてオンライン発注システム「Cominix On-Line」を構築しておりますが、このシステムに何らかの予期せぬシステムダウンやプログラムエラー、コンピューターウイルスなどによる障害が発生し

た場合には、大きな信用失墜と機会損失に繋がり、当社の経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

(11) レアメタル原材料（タングステン）不足や価格上昇によるリスク

当社グループの主要商品である超硬切削工具に使用されている原材料（タングステン）は、切削工具製造メーカーがその調達をほとんどを中国からの輸入に依存しているため、中国の政治・経済情勢等の変化、法律の改正、紛争、自然災害、伝染病の流行等の不測の事態により原材料（タングステン）が調達できなくなった場合や、その原材料の著しい価格上昇が発生した場合には、当社の販売活動に影響が生じ、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

契約会社名	相手方の名称	契約内容	契約締結日	契約期間
大阪工機株式会社	住友電気工業株式会社	住友電気工業株式会社が製造するイゲタロイ及びダイヤ製品の特約販売に関する基本契約。販売地域は、原則として日本国内とする。	平成16年7月23日	自 平成16年7月23日 至 平成17年7月22日 以降1年毎の自動更新

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたり重要となる会計方針については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載されているとおりであります。

当社グループは、税効果会計、貸倒引当金、商品の評価、投資その他の資産の評価及び偶発事象等に関して、過去の実績や当該取引の状況に照らして、合理的と考えられる見積り及び判断を行い、その結果を資産・負債の帳簿価額及び収益・費用の金額に反映して連結財務諸表を作成しておりますが、実際の結果は見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

### (2) 財政状態の分析

#### 資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べて598,253千円増加し、7,338,705千円となりました。これは、現金及び預金が217,760千円、取扱い商品や在庫数量を増やしたことにより商品が225,258千円それぞれ増加したことなどによりります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて3,419千円減少し、1,793,747千円となりました。これは、主に減価償却などにより建物及び構築物が17,907千円減少したことによりります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて593,425千円増加し、9,135,033千円となりました。

#### 負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べて184,332千円減少し、5,300,978千円となりました。これは、北関東ロジスティクスセンター開設時に発注した商品の支払が済んだことなどにより支払手形及び買掛金が175,378千円、借入れの返済により短期借入金が94,885千円、1年内返済予定の長期借入金が89,525千円それぞれ減少したことなどによりります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて45,048千円減少し、518,362千円となりました。これは、社債が償還により100,000千円減少したことなどによりります。

この結果、負債は、前連結会計年度末に比べて229,381千円減少し、5,819,341千円となりました。

#### 純資産

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて822,806千円増加し、3,315,692千円となりました。これは、株式上場に伴う公募増資などにより資本金が309,408千円、資本剰余金が309,408千円、当期純利益の計上により利益剰余金が202,522千円それぞれ増加したことなどによりります。

### (3) 経営成績の分析

#### （売上高）

当連結会計年度における売上高は、主に自動車業界を中心とした震災復旧需要の影響を受けたことにより、前連結会計年度に比べて1,326,857千円（9.8%）増加し、14,900,633千円となりました。

#### （売上総利益）

当連結会計年度における売上総利益は、売上高の増加により、前連結会計年度に比べて383,786千円（15.3%）増加し、2,895,568千円となりました。

#### （営業利益）

当連結会計年度における営業利益は、売上総利益が増加した一方で、販売費及び一般管理費が前連結会計年度に比べて233,476千円（10.9%）増加し、2,384,659千円となったことから、前連結会計年度に比べ150,309千円（41.7%）増加し、510,908千円となりました。

#### （経常利益）

当連結会計年度における経常利益は、営業利益が増加した一方で、株式公開費用の発生により営業外費用も増加したことなどから、前連結会計年度に比べて134,107千円（39.4%）増加し、474,824千円となりました。

#### （特別損益）

当連結会計年度における特別損失は、投資有価証券評価損を計上いたしました。東日本大震災の被災により災害による損失を計上した前連結会計年度に比べて29,603千円（75.1%）減少し、9,830千円となりました。

#### （当期純利益）

当連結会計年度における税金等調整前当期純利益は、前連結会計年度に比べて163,710千円（54.3%）増加し、464,994千円となりました。法人税等は、前連結会計年度に比べて91,844千円（62.0%）増加し、240,095千円となりました。この結果、当連結会計年度における当期純利益は、前連結会計年度に比べて71,866千円（47.0%）増加し、224,899千円となりました。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、資金という。）は、前連結会計年度末に比べ217,760千円増加し、743,688千円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において営業活動の結果使用した資金は65,725千円（前連結会計年度は164,603千円の獲得）となりました。

収入の主な内訳は、税金等調整前当期純利益464,994千円、減価償却費53,311千円、賞与引当金の増加15,826千円、役員退職慰労引当金の増加12,625千円などであり、支出の主な内訳は、たな卸資産の増加額226,783千円、法人税等の支払額222,105千円、仕入債務の減少額173,223千円、売上債権の増加額104,496千円であります。これは、売上高の回復及びそれに伴う売掛債権の増加、北関東ロジスティクスセンター開設時に発注した商品の支払が済んだことによる仕入債務の減少、取扱い商品や在庫数量を増やしたことによるたな卸資産の増加などを主な要因としております。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において投資活動の結果使用した資金は61,106千円（前連結会計年度比9.2%減）となりました。

これは、主に保険積立金の積立による支出 31,049千円、有形固定資産の取得による支出19,540千円、無形固定資産の取得による支出14,785千円などであり、これは、当社における広島支店の改修工事、パソコンや営業車の購入、基幹システムの追加プログラム料金などによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において財務活動の結果得られた資金は346,411千円（前連結会計年度は294,120千円の使用）となりました。

収入の主な内訳は、株式の発行による収入618,816千円、長期借入れによる収入200,000千円であり、支出の主な内訳は、長期借入金の返済による支出253,382千円、社債の償還による支出100,000千円、短期借入金の純減による支出94,885千円、配当金の支払額22,376千円などであり、これは、当社株式の上場に伴う公募増資や、前連結会計年度に引き続き有利子負債の圧縮に努めたことなどを主な要因としております。

資金需要及び財務政策

当社グループの資金需要の主なものは、国内市場でのシェア拡大のための商品強化と海外市場への事業所展開であります。

現状は、戦略的な規模拡大による資金需要に対しては、金融機関からの借入金により対応しておりますが、取扱量の増大に伴う物流センター設備への投資やコンピューターシステムへの投資も継続的に行う必要があり、今後資金需要が高まる可能性があります。

今後は手元資金でこれらの資金需要が満たされない場合も想定され、新株発行など十分な準備を行ってまいります。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「第2 事業の状況 4 事業等のリスク」に記載のとおり認識しており、これらのリスクにつきましては発生の回避及び発生した場合にはその対処に努める所存であります。

(6) 経営戦略の現状と見通し

当社グループは、切削工具事業を中心として事業を展開しております。今後の成長のためにも、当社の競争力に磨きをかけるため、営業担当者の対面販売における知識向上を目指した社員教育に力を入れております。

国内市場においては成長が鈍化していく見通しであり、競争力ある商品ラインナップの拡充でシェア拡大を進めてまいります。海外市場においては成長が続く見通しであり、中国及び東南アジア諸国での販売網整備を主な経営戦略として進めてまいります。

また、耐摩工具事業や光製品事業など主力以外の事業の育成にも努めてまいります。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループの経営陣は、現在の事業環境及び入手可能な情報に基づき最善の経営方針を立案するように努めておりますが、我が国の製造業を取り巻く環境は、中国をはじめとするアジア諸国に製造拠点が移転されるなど、製造が海外に流出する製品と、技術流出を防ぐ意味において日本国内で製造される高精度を要求される製品の二極化が進行していくと認識しております。

これらの状況を踏まえて、国内市場ではシェア拡大により、成長性のある海外市場では積極的な投資での事業拡大により、当社グループの収益力を強化していく方針であります。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度において重要な設備投資はありません。なお、重要な設備の除却、売却等もありません。

#### 2 【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

平成24年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)				従業員数 (人)
			建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	その他	合計	
本社 (大阪市中央区)	切削工具事業、 耐摩工具事業、 海外事業、 光製品事業、 全社(共通)	販売設備 本社機能	211,240	731,057 (742)	13,664	955,962	53 (2)
福岡支店 (福岡市博多区)	切削工具事業、 全社(共通)	販売設備	34,631	75,000 (274)	655	110,286	8 (1)
広島支店 (広島市中区)	切削工具事業、 全社(共通)	販売設備	33,914	54,990 (215)	111	89,015	14 (-)
名古屋支店 (名古屋市中区)	切削工具事業、 全社(共通)	販売設備	11,123	75,000 (148)	-	86,123	11 (-)
その他 (注)4	切削工具事業、 耐摩工具事業、 光製品事業、 全社(共通)	販売設備	51,340	84,291 (3,305)	15,939	151,570	71 (20)

- (注) 1 現在休止中の主要な設備はありません。  
 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
 3 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具備品及び車両運搬具の合計であります。  
 4 大阪ロジスティクスセンター、北関東ロジスティクスセンター及び東京・水戸・北関東・東大阪・姫路・福山・大竹・鹿児島各営業所等であります。  
 5 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。  
 6 上記の他、連結会社以外から賃借している設備の内容は、下記のとおりであります。

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	賃借料 (千円)
大阪ロジスティクスセンター 及び東大阪営業所 (大阪府東大阪市)	切削工具事業、 全社(共通)	販売設備 物流設備	26,400
東京支社 (東京都品川区)	切削工具事業、 耐摩工具事業、 光製品事業、 全社(共通)	物流設備	17,086
北関東ロジスティクスセンター (群馬県邑楽郡大泉町)	全社(共通)	物流設備	6,857

##### (2) 国内子会社

該当事項はありません。

(3) 在外子会社

平成23年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (人)
				建物 及び 構築物	土地 (面積㎡)	その他	合計	
中阪貿易(上海)有限公司	本社 (中国 上海市)	海外事業	販売設 備	-	- (-)	14,257	14,257	33 (-)
DAIKOH(THAILAND) CO.,LTD.	本社 (タイ バンコク市)	海外事業	販売設 備	-	- (-)	1,065	1,065	14 (-)
COMINIX(PHILIPPINES), INC.	本社(フィリピン ビナン市)	海外事業	販売設 備	-	- (-)	313	313	10 (-)
PT.COMINIX INDONESIA	本社(インドネシア プルワカルタ市)	海外事業	販売設 備	-	- (-)	1,853	1,853	1 (-)

- (注) 1 現在休止中の主要な設備はありません。  
 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
 3 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具備品及び車両運搬具の合計であります。  
 4 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。  
 5 在外子会社の決算日は12月31日であり、連結財務諸表の作成に当たっては、同日現在の財務諸表を使用しているため、平成23年12月31日現在の金額を記載しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

- (1) 重要な設備の新設等  
 該当事項はありません。
- (2) 重要な設備の除却等  
 経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	4,800,000
計	4,800,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年6月29日)	上場金融商品取引所名又は登録 認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	3,434,420	3,434,420	大阪証券取引所JASDAQ (スタンダード)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社の標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株であります。
計	3,434,420	3,434,420	-	-

#### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成19年8月6日 (注)1	17,780	617,780	8,890	38,890	8,890	18,890
平成19年9月20日 (注)2	3,800	621,580	1,900	40,790	1,900	20,790
平成23年9月30日 (注)3	10,000	631,580	17,000	57,790	17,000	37,790
平成23年11月26日 (注)4	1,894,740	2,526,320	-	57,790	-	37,790
平成24年3月8日 (注)5	800,000	3,326,320	257,600	315,390	257,600	295,390
平成24年3月28日 (注)6	108,100	3,434,420	34,808	350,198	34,808	330,198

(注)1 有償第三者割当

発行価格 1,000円  
資本組入額 500円  
割当先 当社従業員持株会

2 有償第三者割当

発行価格 1,000円  
資本組入額 500円

割当先 当社取締役及び監査役

3 有償第三者割当

発行価格 3,400円  
資本組入額 1,700円  
割当先 住友電気工業株式会社

4 平成23年11月2日開催の取締役会決議に基づき、平成23年11月25日を基準日として平成23年11月26日付で当社普通株式1株につき4株の株式分割を実施し、これにより発行済株式総数は1,894,740株増加し、2,526,320株となっております。

5 有償一般募集（ブックビルディング方式による募集）

発行価格 700円  
引受価格 644円  
資本組入額 322円

6 有償第三者割当（オーパーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資）

発行価格 700円  
引受価格 644円  
資本組入額 322円  
割当先 野村證券株式会社

(6) 【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満 株式の状況 (株)	
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		計
					個人以外	個人			
株主数 (人)	-	3	11	20	6	-	1,416	1,456	-
所有株式数 (単元)	-	410	353	3,363	445	-	29,770	34,341	320
所有株式数 の割合 (%)	-	1.19	1.02	9.79	1.29	-	86.68	100.00	-

(7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
林 祐介	大阪府吹田市	535,600	15.59
大阪ビジネスプランニング有限会社	大阪府吹田市千里山松が丘12-18	246,000	7.16
柳川 修一	堺市西区	212,800	6.19
柳川 妙子	大阪府岸和田市	200,800	5.84
柳川 重昌	大阪府岸和田市	186,000	5.41
柳川 十糸久	大阪府豊中市	170,000	4.94
宿 淳子	大阪市北区	160,400	4.67
柳川 純子	大阪府吹田市	154,000	4.48
大阪工機従業員持株会	大阪市中央区	121,436	3.53
柳川 歩	大阪府豊中市	119,600	3.48
計	-	2,106,636	61.33

(注) 最近の有価証券届出書において主要株主であった大阪ビジネスプランニング有限会社は、当事業年度末では主要株主ではなくなりました。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,434,100	34,341	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社の標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 320	-	-
発行済株式総数	3,434,420	-	-
総株主の議決権	-	34,341	-

【自己株式等】

該当事項はありません。

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

## 3 【配当政策】

当社は、経営体質強化と将来の事業展開に備えて、必要な内部留保の確保を考慮しつつ、株主の皆様への安定的な利益還元に努めることを基本方針としながら、利益還元に関しては、業績の推移と今後の経営環境を勘案して決定する方針をとっております。内部留保資金につきましては、長期的な展望に立った国内外での事業所開設資金並びに新規取扱商品の開拓資金等に充当し、さらなる企業競争力の強化に取り組んでまいります。

配当の回数については、年1回の期末配当を行うことを基本方針としており、その決定機関は株主総会であります。なお、毎年9月30日を基準日として、会社法第454条第5項に規定する中間配当を、取締役会の決議により行うことができる旨を定款に定めております。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、安定的な利益還元の方針に基づき、以下のとおり1株につき20円とさせていただきます。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成24年6月28日 定時株主総会決議	68,688	20.00

## 4 【株価の推移】

### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第59期	第60期	第61期	第62期	第63期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高(円)	-	-	-	-	700
最低(円)	-	-	-	-	644

(注) 1 最高・最低株価は、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)における株価を記載しております。

2 当社株式は、平成24年3月9日から大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に上場しております。それ以前については、該当事項はありません。

### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	11月	12月	平成24年1月	2月	3月
最高(円)	-	-	-	-	-	700
最低(円)	-	-	-	-	-	644

(注) 1 最高・最低株価は、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)における株価を記載しております。

2 当社株式は、平成24年3月9日から大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に上場しております。それ以前については、該当事項はありません。

5 【役員】の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
代表取締役社長	-	柳川 重昌	昭和22年3月10日生	昭和44年4月 昭和60年4月 平成6年3月 平成15年4月 平成17年3月 平成18年3月	当社入社 取締役営業部長 専務取締役 代表取締役社長(現任) ㈱CST代表取締役社長 中阪貿易(上海)有限公司董事長(現任)	(注)2	186,000
常務取締役	第二営業本部長 兼西日本第二営業部長	淵上 正秀	昭和31年9月10日生	昭和56年4月 平成13年2月 平成16年11月 平成19年4月 平成21年3月 平成23年8月 平成24年6月	当社入社 東部第三営業部長 取締役東部第二営業部長兼東京営業3課長 取締役第二営業本部長兼東部第二営業部長兼東京営業3課長 武和テック(有)代表取締役社長 取締役第二営業本部長兼西日本第二営業部長 常務取締役第二営業本部長兼西日本第二営業部長(現任)	(注)2	4,000
常務取締役	経営企画室長	柳川 十糸久	昭和41年6月25日生	平成3年4月 平成18年4月 平成18年5月 平成19年4月 平成20年10月 平成22年4月 平成23年6月 平成24年6月	当社入社 経営企画室長兼総務課長 取締役経営企画室長兼総務課長 取締役総務部長兼経営企画室長 取締役管理部長兼経営企画室長 取締役管理本部長兼経営企画室長 取締役経営企画室長 常務取締役経営企画室長(現任)	(注)2	170,000
取締役	第一営業本部長	浅賀 正義	昭和25年4月14日生	昭和58年2月 昭和62年9月 平成10年4月 平成16年11月 平成19年4月 平成23年8月	聖和商事(株)入社 当社入社 東部第一営業部長兼東京営業1課長 取締役東部第一営業部長兼東京営業1課長 取締役第一営業本部長兼東部第一営業部長兼東京営業1課長 取締役第一営業本部長(現任)	(注)2	4,000
取締役	海外事業部長兼 海外部長	田中 秀樹	昭和39年11月11日生	昭和62年4月 平成18年4月 平成19年5月 平成22年4月 平成23年8月	当社入社 海外部長兼西日本第二営業部長兼広島営業2課長兼福岡営業2課長 取締役海外部長 DAIKOH(THAILAND)CO.,LTD.取締役社長 取締役海外事業部長兼環境営業課長 取締役海外事業部長兼海外部長(現任)	(注)2	4,000

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	管理本部長兼経 理部長	南 雄治	昭和27年11月20日生	昭和63年9月 平成20年8月 平成22年8月 平成23年6月 平成23年8月	(株)明響社(現(株)NESTAGE)入社 当社入社 経理部長兼財務課長 取締役管理本部長兼経理部長兼 財務課長 取締役管理本部長兼経理部長 (現任)	(注)2	-
監査役	-	本庄 元	昭和16年9月21日生	昭和35年3月 昭和60年4月 平成6年3月 平成19年5月	当社入社 営業部長 取締役営業副本部長 常勤監査役(現任)	(注)3	3,200
監査役	-	明松 優	昭和28年8月11日生	昭和59年8月 昭和60年8月 昭和61年7月 平成6年9月 平成15年11月 平成22年6月	公認会計士登録 税理士登録 明松優公認会計士事務所開設 (現任) 高砂電器産業(株)監査役 (株)カワサキ監査役(現任) 当社監査役(現任)	(注)3	-
監査役	-	稲本 治朗	昭和23年6月1日生	昭和49年4月 平成9年11月 平成14年7月 平成23年6月	住友電気工業(株)入社 住電硬質合金(天津)有限公司 総経理 東海精密(株)代表取締役社長 当社監査役(現任)	(注)3	-
計							371,200

- (注) 1 監査役明松優及び稲本治朗は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。  
2 取締役の任期は、平成23年11月26日の臨時株主総会終結の時から平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時  
までであります。  
3 監査役の任期は、平成23年11月26日の臨時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時  
までであります。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、公正な事業活動を通して、「社会に貢献し、社会の発展に寄与してこそ本当の事業である」という経営理念の実現を経営の基本方針としております。

この基本方針を堅持しつつ、事業の発展並びに企業価値の向上を図るために、経営全般の効率性とスピードの向上に取り組むとともに、経営の意思決定や執行における適法性・妥当性・透明性を確保した経営管理組織の整備を進め、また、これらを監視・是正していく社内システムの更なる強化に努めております。

具体的には、株式上場に向けて経営の健全性・透明性の強化を図るため、平成22年6月の第61期定時株主総会において当社と利害関係を一切有しない社外監査役を1名、平成23年6月の第62期定時株主総会において当社と利害関係を一切有しない社外監査役を更に1名増員して監査役会設置会社とし、取締役の監視・監督機能の強化を進めております。

#### 企業統治の体制

##### 企業統治の体制の概要及び当該企業統治の体制を採用する理由

当社では、経営上の重要な事項についての意思決定を、当社事業に精通した取締役により構成される取締役会が行っております。現在は、社外取締役は選任しておりませんが、社外監査役2名を含む監査役3名により構成されている監査役会を設置しており、監査役及び監査役会による経営監視を実施しております。

このような体制を構築することで、当社は、経営全般の効率性とスピードの向上を図るとともに、監査役及び監査役会が効果的に監査を実施することで、経営意思決定や執行における適法性・妥当性・透明性を確保しております。

#### a 取締役会

取締役会は平成24年6月29日現在取締役6名で構成されており、原則として月1回の定例取締役会を開催しております。また、必要に応じて随時臨時取締役会を開催しております。

取締役会では、経営基本方針、経営計画、予算編成、その他重要な経営課題事項を協議決定しており、月次業績等の重要な報告も行っております。

#### b 監査役会

当社は、会社法第328条第1項の適用を受けておりませんが、監査役会を設置しております。監査役会は、原則として月1回開催されており、平成24年6月29日現在監査役3名（うち社外監査役2名）で構成され、コーポレート・ガバナンスのあり方とその運営状況を監視し、取締役の職務の執行を含む日常的活動の監査を行っております。社外監査役のうち1名は公認会計士・税理士であり、その専門的な観点より経営監視を実施しております。

監査役は、取締役会へ出席することにより、議事運営、決議内容を監査し、積極的に意見表明を行っております。また、内部監査室長及び会計監査人である監査法人と連携しながら、法令及び社内規程の遵守状況について監査を実施しております。

常勤監査役は監査計画に従い、経営計画の遂行状況と、これを推進する経営組織の実情等を監査しております。また、重要な経営会議への出席や営業所への往査など実効性のあるモニタリングを通じて、組織の課題点を確認しております。

#### c 内部監査室

当社の内部監査室の人員は内部監査室長1名であります。業務上特に必要あるときは、社長の命により別に指名された者を加えて内部監査を実施しております。

内部監査は、当社が定める「内部監査規程」に基づき当社及び子会社の業務運営及び財産管理の実態を調査し、諸法令、定款及び社内規程への準拠性を確認し、誤謬、脱漏、不正等の防止に寄与しております。

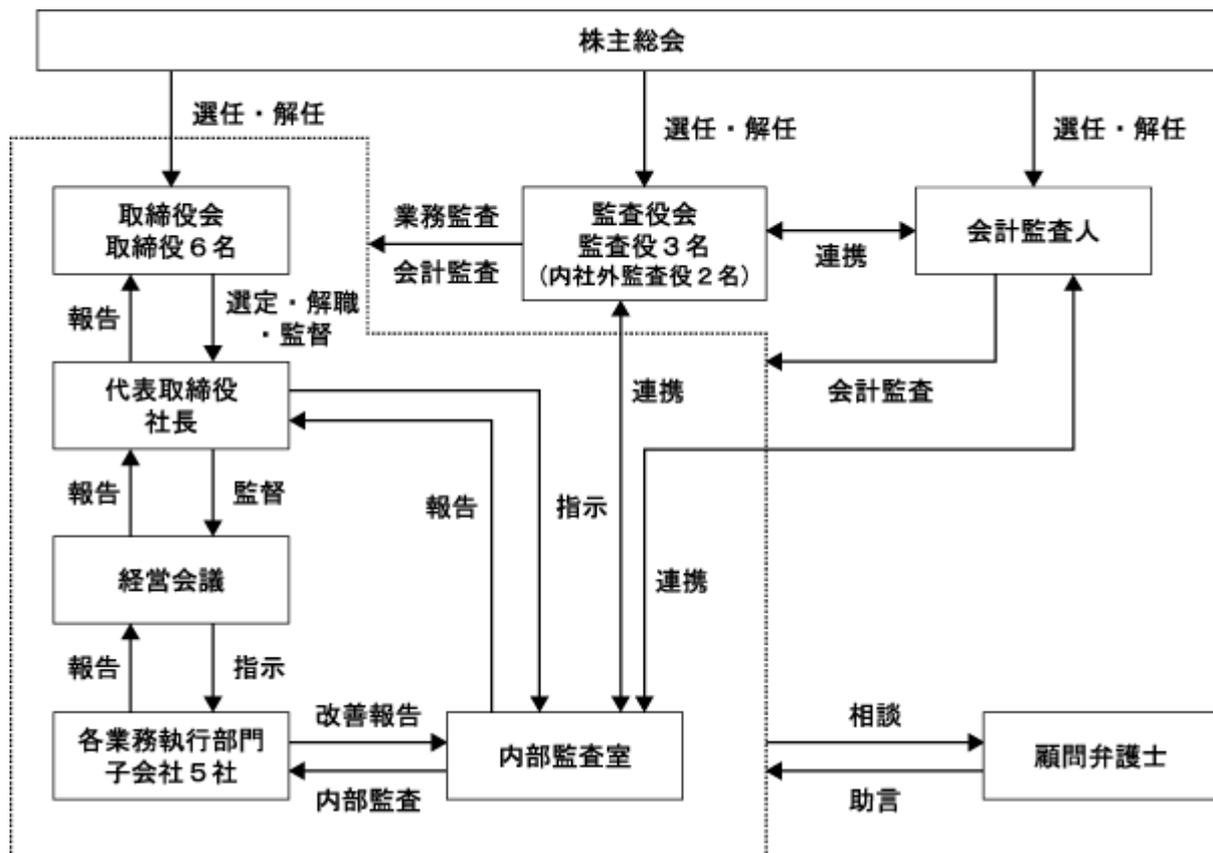
#### d 経営会議

当社は、社長、取締役、監査役、本部長、事業部長及び部長をもって構成する経営会議を設置しております。

経営会議は、原則として毎月1回開催され、取締役会に報告すべき月次業績の審議及び取締役会に諮るべき重要な経営課題の審議並びに取締役会から諮問又は委託された重要な経営課題の策定を主務としております。

また、当社及び連結子会社の中期経営計画に基づき策定された「3ヶ年中期経営計画」及び、この計画を具体的に遂行するために策定された「単年度予算」の運用に関する基準と諸手続を規定し、予算編成及び実績を審議しております。

なお、これらの模式図は次のとおりであります。



#### 内部統制システムの整備の状況

当社は業務の適正性を確保するための体制として、「内部統制システムの構築に関する基本方針」を定めており、現状は以下のとおりであります。

##### a 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は、「企業行動規範」及び「コンプライアンス規程」を制定し、役員及び社員等が、それぞれの立場でコンプライアンスを自らの問題として捉えて業務遂行に当たるよう、経営会議等を通じ研修・指導しております。また、「内部通報規程」を制定し、不正行為等の早期発見と是正を図りコンプライアンス経営の強化に努めております。さらに、当社は健全な会社経営のため、「反社会的勢力に対する基本方針」を定め、反社会的勢力及び団体とは決して関わりを持たず、また不当な要求に対しては毅然とした対応を取っております。

##### b 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社は、法令及び当社で定める「文書管理規程」に従い、株主総会議事録、取締役会議事録、その他取締役の職務執行に係る情報を文書又は電磁的媒体に記録するとともに、適切に保存管理し、必要に応じて保存状況の検証を行っております。

##### c 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、「リスク管理方針」を制定し、緊急事態を予測あるいは予防するために、リスクの抽出及び特定、リスクの評価及び対策、リスクに関する教育、リスクの管理及び連絡体制などを整備しております。日々の業務におけるリスクの有無及びリスク管理方針の運用状況につき取締役会もしくは経営会議にて審議及び検討しております。

d 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、定例の取締役会を毎月1回開催し、業務執行に関する基本的事項及び重要事項の意思決定並びに取締役の業務執行状況の報告を行っております。  
 業務の運営については、中長期経営計画・各年度予算を策定し、取締役の担当職責を明確にして、具体的な目標設定・対策・立案のもと業務遂行しております。また、「組織規程」「業務分掌規程」「職務権限規程」により効率的な業務遂行を行っております。

e 財務報告の適正性を確保するための体制

グループ全体の財務報告に係る内部統制については、金融商品取引法及び関連する規則や基準の定めに従い、「財務報告に係る内部統制の基本方針」を制定し、これに基づき適切な業務の運用に努めることにより、財務報告の信頼性を確保しております。

f 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社グループ各社における業務の適正性を確保するため、「企業行動規範」を制定し、事業運営上、尊重・遵守していくべき事項の共有化に努めております。  
 グループ各社を管轄する担当役員は、各社の業績等について定期的に報告を受け、又は必要により当社と協議する体制を整えております。  
 当社グループ各社のリスクの有無を監査するため、内部監査室は監査において発見された損失の危険やコンプライアンス等に関する重要事項については、取締役会に報告するとともに改善施策等について指導監督しております。

g 監査役がその職務を補助すべき使用人に関する体制と当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

現状においては補助すべき使用人は選任されておりませんが、監査役が補助すべき使用人を置くことを求めた場合、監査役と人数、体制、独立性に関する事項等を協議し、必要な措置を講じる旨を定めております。また、監査役の職務を補助すべき使用人の任命・異動・人事評価については、あらかじめ監査役に相談し、意見を求める旨を定めております。

h 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他監査役への報告に関する体制

取締役は、会社に対して著しい損害を及ぼすおそれのある事実があることを発見した場合は、法令に従い、直ちに監査役に報告します。監査役は、取締役会へ出席し重要な意思決定の過程及び業務の遂行状況を把握し、また主要な稟議書その他業務執行に関する重要な文書を検証し、必要に応じて取締役又は使用人にその説明を求めています。

i その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役が取締役及び使用人からヒアリングを行う機会を適宜確保するとともに、代表取締役、内部監査室、監査法人との定期的な情報交換会を開催しております。また、監査の実施にあたり監査役が必要と認めるときは、公認会計士・弁護士・各種コンサルタントその他の外部アドバイザーを活用し、監査業務に関する助言や支援を受ける機会を保障しております。

なお、内部統制システムの模式図は次のとおりであります。



リスク管理体制の整備の状況

事業運営上のリスクについては、「リスク管理方針」を制定し、天災、市場競争の激化、為替や資源相場といった会社を取り巻く外部的要因と、情報システムの故障及び不具合、会計処理の誤謬、不正行為の発生、個人情報及び高度な経営判断に関わる情報の流出又は漏えいといった会社の中で生ずる内部的要因とに分類し、リスク管理担当部門においてリスクを識別及び評価、リスクへの対応決定、リスク発生可能性を監視するプロセスをもってリスク管理を行っています。

具体的には、経営企画室をリスク管理担当部門に制定し、当社で作成した「リスク管理方針」に基づき、リスクの発生の可能性を分析しており、取りまとめられた「リスク管理一覧表」は取締役会で決議しております。発生する可能性が高いリスクを認識した場合には、発生の低減、回避や移転等のリスクコントロール手法により対策を検討しております。

万が一、これらリスクが顕在化した場合には、代表取締役社長を対策本部長とする社内横断的な対策本部を設置して、「リスク（危機）管理規程」に従い、全社一丸となって顕在化したリスクに対処して損失を最小限に留めるべく対応することとしております。

内部監査、監査役監査、会計監査の状況

a 内部監査

内部統制システム強化策として、監査役や監査法人とも緊密に連携して「内部監査規程」及び年度計画に基づき業務活動の健全化を図るため、内部監査室（専任担当者1名）による業務運営の監視を行っています。監査結果を直接社長に報告するとともに、監査対象部門に対して改善事項の勧告を行うことにより、内部管理体制の強化を図っております。

b 監査役監査

当社の監査役3名は原則、取締役会に参加し必要に応じて質疑・意見表明を行っています。また、内部監査室とは相互に適時適切な情報伝達と意見交換を行い、適正かつ効率的な監査を行っています。監査法人とは定期的な会合を持ち、意見交換、情報の収集を行うとともに、適宜、必要な報告を求めるなど連携を密にしております。

c 会計監査

会計監査については、有限責任 あずさ監査法人と監査契約を締結し、会計監査を受けております。

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する監査法人名
指定有限責任社員・業務執行社員 日根野谷 正人	有限責任 あずさ監査法人
指定有限責任社員・業務執行社員 黒木 賢一郎	有限責任 あずさ監査法人

(注) 1 継続監査年数につきましては、全員7年以内であるため記載を省略しております。

2 当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士5名、その他4名であります。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外監査役は2名であります。

社外監査役稲本治朗は、当社の仕入先である住友電気工業株式会社の出身であります。社外監査役明松優は、当社及び当社子会社並びに当社及び当社子会社のその他の取締役、監査役と親族関係その他の人的関係を有さず、また、資本的關係又は取引関係その他の利害関係はありません。

当社の監査役3名のうち2名が社外監査役であり、互いに連携して会社の内部統制状況を監視しております。具体的には、豊富な経験と幅広い見識に基づき、監査役会や取締役会への出席などを通じ、業務執行から独立した視点や専門的な視点から意見を述べ、意思決定の過程において重要な役割を果たしております。これらの社外監査役の活動は、当社が経営判断を行うに当たり重要な役割を果たしており、当社として適切な選任状況であると考えております。

当社は、社外監査役の独立性に関する基準を定めてはおりませんが、現社外監査役は当社と特別な利害関係はなく、独立した立場から会社の業務執行を監督することが可能であると考えております。なお、当社は、社外監査役明松優を株式会社大阪証券取引所が定める独立役員として指定しております。

社外監査役は、常勤監査役、監査法人及び内部監査室との連携の下、業務執行の適正性、妥当性を監査しております。

当社は、社外取締役を選任しておりません。当社は、経営の意思決定機能と業務執行を管理監督する機能を持つ取締役会に対し、監査役3名のうち2名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しています。コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

役員報酬の内容

提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	賞与引当金 繰入額	退職慰労引当金 繰入額	
取締役	106,419	75,321	18,973	12,125	7
監査役	7,660	6,210	950	500	1
社外監査役	3,450	3,150	300	-	2

(注) 1 使用人兼務役員 5 名に対して支払った使用人給与額(賞与含む)は48,454千円で、上記金額には含まれておりません。

2 当社は、役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

株式の保有状況

a 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 13銘柄  
貸借対照表計上額の合計額 95,526千円

b 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)不二越	81,337	38,391	取引関係の維持強化
住友電気工業(株)	15,496	17,836	取引関係の維持強化
東洋製罐(株)	10,000	13,640	取引関係の維持強化
山九(株)	15,090	6,006	取引関係の維持強化
オーエスジー(株)	4,000	4,800	取引関係の維持強化
(株)T & Dホールディングス	1,500	3,075	取引関係の維持強化
(株)I H I	9,893	2,008	取引関係の維持強化
フルサト工業(株)	1,850	1,383	取引関係の維持強化
(株)りそなホールディングス	2,100	831	取引関係の維持強化
ユアサ商事(株)	7,187	754	取引関係の維持強化
ノーリツ鋼機(株)	1,200	600	取引関係の維持強化
東プレ(株)	263	175	取引関係の維持強化

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)不二越	86,367	41,024	取引関係の維持強化
住友電気工業(株)	19,441	22,026	取引関係の維持強化
東洋製罐(株)	10,000	11,870	取引関係の維持強化
山九(株)	16,516	5,351	取引関係の維持強化
オーエスジー(株)	4,000	5,008	取引関係の維持強化
(株)T & Dホールディングス	3,000	2,877	取引関係の維持強化
(株)I H I	10,652	2,226	取引関係の維持強化
フルサト工業(株)	1,850	1,591	取引関係の維持強化
ユアサ商事(株)	7,000	1,008	取引関係の維持強化
(株)りそなホールディングス	2,100	800	取引関係の維持強化
ノーリツ鋼機(株)	1,200	514	取引関係の維持強化
東プレ(株)	263	228	取引関係の維持強化

みなし保有株式

該当事項はありません。

c 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

取締役の定数

当社の取締役は9名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び選任決議は、累積投票によらない旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める特別決議について、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を可能とすることを目的に、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

自己株式の取得

当社は、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

社外監査役との責任限定契約の内容

当社は、会社法第423条第1項の賠償責任について、社外監査役との間において、その職務を行うにつき善良でかつ重大な過失がなかったときは、会社法第427条第1項に基づきその責任の限度額を会社法第425条第1項に定める最低責任限度額とする契約を締結しております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区 分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)
提出会社	6,750	4,040	15,000	1,500
計	6,750	4,040	15,000	1,500

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、財務報告に係る内部統制に関する助言・指導業務及び株式上場申請に関する助言・指導業務であります。

当連結会計年度

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、株式発行に係るコンフォートレター作成業務であります。

【監査報酬の決定方針】

監査報酬の決定方針は特に定めておりませんが、過去の監査実務及び今後予想される監査業務を定量的に見積もり、当社及び監査公認会計士等の両者で協議の上報酬額を決定しております。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）及び事業年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の連結財務諸表及び財務諸表について、有限責任あずさ監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。

具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計専門誌等の定期購読を行っております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	525,928	743,688
受取手形及び売掛金	3,095,580	3,193,811
商品	2,818,960	3,044,219
繰延税金資産	94,270	124,892
その他	235,663	262,753
貸倒引当金	29,951	30,659
流動資産合計	6,740,452	7,338,705
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	851,671	856,221
減価償却累計額	491,514	513,971
建物及び構築物(純額)	360,157	342,249
土地	1,020,338	1,020,338
その他	168,463	176,042
減価償却累計額	113,217	128,183
その他(純額)	55,246	47,859
有形固定資産合計	1,435,742	1,410,447
無形固定資産		
のれん	26,311	17,540
リース資産	2,432	844
その他	23,386	30,735
無形固定資産合計	52,130	49,121
投資その他の資産		
投資有価証券	90,502	95,526
長期貸付金	2,000	-
繰延税金資産	32,176	28,390
その他	199,258	226,255
貸倒引当金	14,643	15,994
投資その他の資産合計	309,294	334,178
固定資産合計	1,797,167	1,793,747
繰延資産		
社債発行費	3,989	2,581
繰延資産合計	3,989	2,581
資産合計	8,541,608	9,135,033

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)		当連結会計年度 (平成24年3月31日)	
<b>負債の部</b>				
<b>流動負債</b>				
支払手形及び買掛金	1	3,614,709	1, 3	3,439,330
短期借入金	1, 2	1,156,579	1, 2	1,061,694
1年内償還予定の社債		100,000		100,000
1年内返済予定の長期借入金	1	225,565	1	136,040
リース債務		1,760		940
未払法人税等		136,000		183,217
賞与引当金		111,240		127,067
役員賞与引当金		14,385		20,223
その他		125,070		232,464
流動負債合計		5,485,311		5,300,978
<b>固定負債</b>				
社債		200,000		100,000
長期借入金	1	180,467	1	216,610
リース債務		985		44
退職給付引当金		84,376		91,500
役員退職慰労引当金		95,583		108,208
その他		2,000		2,000
固定負債合計		563,411		518,362
負債合計		6,048,722		5,819,341
<b>純資産の部</b>				
<b>株主資本</b>				
資本金		40,790		350,198
資本剰余金		20,790		330,198
利益剰余金		2,445,682		2,648,204
株主資本合計		2,507,262		3,328,601
<b>その他の包括利益累計額</b>				
その他有価証券評価差額金		4,851		10,686
為替換算調整勘定		31,440		34,677
その他の包括利益累計額合計		26,589		23,990
少数株主持分		12,212		11,082
純資産合計		2,492,885		3,315,692
負債純資産合計		8,541,608		9,135,033

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	13,573,775	14,900,633
売上原価	<sup>1</sup> 11,061,993	<sup>1</sup> 12,005,064
売上総利益	2,511,782	2,895,568
販売費及び一般管理費	<sup>2</sup> 2,151,182	<sup>2</sup> 2,384,659
営業利益	360,599	510,908
営業外収益		
受取利息	42	282
受取配当金	986	1,329
仕入割引	32,940	46,332
為替差益	-	5,732
その他	11,105	10,256
営業外収益合計	45,074	63,933
営業外費用		
支払利息	17,444	16,864
売上割引	17,506	22,415
手形売却損	3,936	5,236
支払手数料	9,423	8,562
為替差損	6,918	-
株式公開費用	-	30,160
株式交付費	-	7,318
その他	9,725	9,460
営業外費用合計	64,956	100,017
経常利益	340,717	474,824
特別損失		
投資有価証券評価損	3,363	9,830
災害による損失	<sup>3</sup> 36,070	-
特別損失合計	39,433	9,830
税金等調整前当期純利益	301,284	464,994
法人税、住民税及び事業税	172,384	269,338
法人税等調整額	24,133	29,242
法人税等合計	148,251	240,095
少数株主損益調整前当期純利益	153,032	224,899
当期純利益	153,032	224,899

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	153,032	224,899
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7,549	5,835
為替換算調整勘定	16,739	4,367
その他の包括利益合計	9,189	1,467
包括利益	143,842	226,367
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	144,114	227,498
少数株主に係る包括利益	271	1,130

## 【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	40,790	40,790
当期変動額		
新株の発行	-	309,408
当期変動額合計	-	309,408
当期末残高	40,790	350,198
<b>資本剰余金</b>		
当期首残高	20,790	20,790
当期変動額		
新株の発行	-	309,408
当期変動額合計	-	309,408
当期末残高	20,790	330,198
<b>利益剰余金</b>		
当期首残高	2,308,189	2,445,682
当期変動額		
剰余金の配当	15,539	22,376
当期純利益	153,032	224,899
当期変動額合計	137,493	202,522
当期末残高	2,445,682	2,648,204
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	2,369,769	2,507,262
当期変動額		
新株の発行	-	618,816
剰余金の配当	15,539	22,376
当期純利益	153,032	224,899
当期変動額合計	137,493	821,338
当期末残高	2,507,262	3,328,601
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	2,697	4,851
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	7,549	5,835
当期変動額合計	7,549	5,835
当期末残高	4,851	10,686
<b>為替換算調整勘定</b>		
当期首残高	14,973	31,440
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	16,467	3,236
当期変動額合計	16,467	3,236
当期末残高	31,440	34,677
<b>その他の包括利益累計額合計</b>		
当期首残高	17,670	26,589

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	8,918	2,598
<b>当期変動額合計</b>	<b>8,918</b>	<b>2,598</b>
当期末残高	26,589	23,990
<b>少数株主持分</b>		
当期首残高	12,484	12,212
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	271	1,130
<b>当期変動額合計</b>	<b>271</b>	<b>1,130</b>
当期末残高	12,212	11,082
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	2,364,582	2,492,885
<b>当期変動額</b>		
新株の発行	-	618,816
剰余金の配当	15,539	22,376
当期純利益	153,032	224,899
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	9,189	1,467
<b>当期変動額合計</b>	<b>128,303</b>	<b>822,806</b>
当期末残高	2,492,885	3,315,692

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	301,284	464,994
減価償却費	43,503	53,311
のれん償却額	13,385	8,770
社債発行費償却	1,407	1,407
災害による損失	36,070	-
貸倒引当金の増減額（ は減少）	6,386	4,499
賞与引当金の増減額（ は減少）	29,940	15,826
役員賞与引当金の増減額（ は減少）	8,525	5,838
退職給付引当金の増減額（ は減少）	13,186	7,123
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	11,125	12,625
受取利息及び受取配当金	1,028	1,612
支払利息	17,444	16,864
為替差損益（ は益）	163	300
保険解約返戻金	3,472	4,111
売上債権の増減額（ は増加）	733,968	104,496
たな卸資産の増減額（ は増加）	536,311	226,783
仕入債務の増減額（ は減少）	1,025,754	173,223
その他	31,286	90,633
小計	264,356	171,366
利息及び配当金の受取額	1,028	1,612
利息の支払額	16,703	16,598
法人税等の支払額	84,077	222,105
営業活動によるキャッシュ・フロー	164,603	65,725
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	43,692	19,540
有形固定資産の売却による収入	1,357	29
無形固定資産の取得による支出	5,710	14,785
投資有価証券の取得による支出	7,231	6,668
保険積立金の積立による支出	30,074	31,049
保険積立金の解約による収入	8,134	8,755
その他	9,882	2,152
投資活動によるキャッシュ・フロー	67,333	61,106

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	113,799	94,885
長期借入れによる収入	-	200,000
長期借入金の返済による支出	288,746	253,382
社債の償還による支出	100,000	100,000
株式の発行による収入	-	618,816
配当金の支払額	15,539	22,376
その他	3,634	1,760
財務活動によるキャッシュ・フロー	294,120	346,411
現金及び現金同等物に係る換算差額	7,311	1,819
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	204,162	217,760
現金及び現金同等物の期首残高	730,090	525,928
現金及び現金同等物の期末残高	<sup>1</sup> 525,928	<sup>1</sup> 743,688

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

連結子会社の数 5社

連結子会社の名称

中阪貿易(上海)有限公司

DAIKOH(THAILAND)CO.,LTD.

COMINIX(PHILIPPINES),INC.

PT.COMINIX INDONESIA

COMINIX VIETNAM CO.,LTD.

当連結会計年度より、新たに設立したPT.COMINIX INDONESIA及びCOMINIX VIETNAM CO.,LTD.を連結の範囲に含めております。

2 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の決算日は12月31日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

3 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産

商品

移動平均法による原価法(連結貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法)

デリバティブ取引により生ずる債権及び債務

時価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

当社については定率法によっております。但し、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物付属設備を除く)については、定額法を採用しております。

連結子会社については定額法によっております。

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

(3) 繰延資産の処理方法

社債発行費

社債償還期間(5年)で均等償却しております。

株式交付費

支出時に全額費用処理しております。

(4) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。

役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与に充てるため、当連結会計年度に見合う支給見込額に基づき計上しております。

#### 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の額に基づき計上しております。なお、当連結会計年度末における退職給付債務の算定にあたっては、自己都合退職による当連結会計年度末要支給額を退職給付債務とする方法(簡便法)によって計上しております。

#### 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、役員退職慰労金規則に基づく期末要支給額を計上しております。

#### (5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産、負債、収益及び費用は、子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めております。

#### (6) のれんの償却方法及び償却期間

5年間で均等償却しております。

#### (7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手元現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資であります。

#### (8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

##### 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

#### 【会計方針の変更】

当連結会計年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分)及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第9号 平成22年6月30日)を適用しております。

当連結会計年度において株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

#### 【追加情報】

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

## 【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1 担保に供している資産並びに担保付債務は以下のとおりであります。

(1) 担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
建物及び構築物	304,016千円	290,909千円
土地	936,047千円	936,047千円
投資有価証券	16,600千円	16,883千円
その他(投資その他の資産)	14,000千円	14,000千円
計	1,270,664千円	1,257,840千円

(2) 担保付債務

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
支払手形及び買掛金	1,621,750千円	1,588,661千円
短期借入金	822,000千円	746,000千円
1年内返済予定の長期借入金	141,418千円	80,000千円
長期借入金	85,000千円	105,000千円
計	2,670,168千円	2,519,661千円

2 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行7行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これら契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	3,140,000千円	3,140,000千円
借入実行残高	1,150,000千円	1,050,000千円
差引額	1,990,000千円	2,090,000千円

3 連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が、連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形	-	64,276千円
支払手形	-	35,332千円

(連結損益計算書関係)

1 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
売上原価	85,441千円	104,885千円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
給料及び賞与	845,983千円	925,569千円
賞与引当金繰入額	111,240千円	127,067千円
役員賞与引当金繰入額	14,385千円	20,223千円
退職給付費用	33,774千円	30,906千円
役員退職慰労引当金繰入額	11,125千円	12,625千円
貸倒引当金繰入額	7,843千円	4,499千円
減価償却費	43,503千円	53,311千円
のれん償却額	13,385千円	8,770千円

3 災害による損失は、東日本大震災によるもので、その内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
商品廃棄損	34,570千円	-
修繕費	1,500千円	-

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金

当期発生額	169千円
組替調整額	8,060千円
税効果調整前	8,229千円
税効果額	2,394千円
その他有価証券評価差額金	5,835千円

為替換算調整勘定

当期発生額	4,367千円
その他の包括利益合計	1,467千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	621,580	-	-	621,580

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	15,539	25.00	平成22年3月31日	平成22年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	22,376	36.00	平成23年3月31日	平成23年6月28日

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	621,580	2,812,840	-	3,434,420

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

第三者割当増資による増加 10,000株

株式分割による増加 1,894,740株

株式上場に伴う公募増資及び第三者割当増資による増加 908,100株

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年6月27日 定時株主総会	普通株式	22,376	36.00	平成23年3月31日	平成23年6月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	68,688	20.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
現金及び預金	525,928千円	743,688千円
現金及び現金同等物	525,928千円	743,688千円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

無形固定資産

主として、販売管理用ソフトウェアであります。

(2) リース資産の減価償却の方法

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 3 会計処理基準に関する事項(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
その他(有形固定資産)	89,407	64,792	24,615
その他(無形固定資産)	4,855	3,818	1,037
合計	94,263	68,610	25,652

(単位：千円)

	当連結会計年度 (平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
その他(有形固定資産)	80,147	70,962	9,184
その他(無形固定資産)	4,553	4,523	30
合計	84,700	75,485	9,215

(2) 未経過リース料期末残高相当額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	17,628	9,620
1年超	10,222	685
合計	27,851	10,305

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	22,890	18,503
減価償却費相当額	20,300	16,372
支払利息相当額	1,793	904

(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

・リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	17,298	16,088
1年超	22,350	29,731
合計	39,648	45,820

## (金融商品関係)

## 1 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については主に金融機関からの借入や社債の発行による方針です。デリバティブは、外貨建の買掛金の為替変動リスクを軽減するために利用し、投機的な取引は行いません。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社の経理規程等及び与信管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を1年ごとに把握する体制としています。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのすべてが1年以内の支払期日です。その一部には、商品の輸入に伴う外貨建のものがあり、為替の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引(通貨スワップ取引)を利用し、リスクを軽減しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、デリバティブ取引管理規程に従って行っており、また、デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金(原則として5年以内)は主に設備投資に係る資金調達です。変動金利の借入金は金利の変動リスクに晒されておりますが、そのすべてが1年以内の支払期日です。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、月次に資金繰り計画を作成するなどの方法により管理しております。

## 2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません(注2)を参照ください。)

## 前連結会計年度(平成23年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	525,928	525,928	-
(2) 受取手形及び売掛金	3,095,580	3,095,580	-
(3) 投資有価証券 其他有価証券	89,502	89,502	-
資産計	3,711,011	3,711,011	-
(1) 支払手形及び買掛金	3,614,709	3,614,709	-
(2) 短期借入金	1,156,579	1,156,579	-
(3) 社債(1年内償還予定含む)	300,000	301,308	1,308
(4) 長期借入金(1年内返済予定含む)	406,032	406,193	161
負債計	5,477,321	5,478,791	1,469
デリバティブ取引	-	-	-

当連結会計年度（平成24年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	743,688	743,688	-
(2) 受取手形及び売掛金	3,193,811	3,193,811	-
(3) 投資有価証券 其他有価証券	94,526	94,526	-
資産計	4,032,026	4,032,026	-
(1) 支払手形及び買掛金	3,439,330	3,439,330	-
(2) 短期借入金	1,061,694	1,061,694	-
(3) 社債（1年内償還予定含む）	200,000	200,688	688
(4) 長期借入金（1年内返済予定含む）	352,650	352,631	18
負債計	5,053,675	5,054,344	669
デリバティブ取引	769	769	-

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記をご参照ください。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 社債（1年内償還予定含む）

これらには市場価格がないため、元金と保証料の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(4) 長期借入金（1年内返済予定含む）

これらの時価については、元金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて計算する方法によっております。

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記をご参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成23年3月31日	平成24年3月31日
非上場株式	1,000	1,000

上記については、市場価額がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	525,928	-	-	-
受取手形及び売掛金	3,095,580	-	-	-
合計	3,621,508	-	-	-

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	743,688	-	-	-
受取手形及び売掛金	3,193,811	-	-	-
合計	3,937,499	-	-	-

(注4) 社債及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
社債	100,000	100,000	100,000	-	-	-
長期借入金	288,746	115,467	45,000	20,000	-	-
合計	388,746	215,467	145,000	20,000	-	-

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
社債	100,000	100,000	-	-	-	-
長期借入金	136,040	86,710	60,040	40,040	29,820	-
合計	236,040	186,710	60,040	40,040	29,820	-

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	49,372	29,679	19,693
	小計	49,372	29,679	19,693
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	40,129	51,458	11,328
	小計	40,129	51,458	11,328
合計		89,502	81,137	8,364

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	52,620	33,235	19,384
	小計	52,620	33,235	19,384
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	41,906	44,697	2,791
	小計	41,906	44,697	2,791
合計		94,526	77,932	16,593

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	43	-	0
合計	43	-	0

3 減損処理を行った有価証券

表中の「取得原価」は、減損処理後の帳簿価額であります。なお、当連結会計年度において減損処理を行い、投資有価証券評価損9,830千円を計上しております。

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引  
 通貨関連

前連結会計年度(平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	種類	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)	評価損益 (千円)
市場取引 以外の取引	為替予約取引				
	買建 米ドル	60,675	12,135	769	769
	合計	60,675	12,135	769	769

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

前連結会計年度(平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度及び確定給付型企业年金制度を採用しております。

2 退職給付債務に関する事項

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
退職給付債務	233,455	241,513
年金資産	149,078	150,013
退職給付引当金	84,376	91,500

3 退職給付費用に関する事項

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
勤務費用	33,774	30,906
退職給付費用	33,774	30,906

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

当社は簡便法を採用しておりますので、割引率等については該当ありません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
流動資産		
賞与引当金	46,721千円	48,285千円
たな卸資産評価損	26,791千円	43,145千円
未払事業税	11,837千円	12,416千円
未払費用	8,442千円	12,033千円
その他	478千円	9,012千円
計	94,270千円	124,892千円
固定資産		
退職給付引当金	35,438千円	32,574千円
役員退職慰労引当金	40,144千円	38,522千円
減損損失	87,152千円	73,871千円
貸倒引当金	6,142千円	5,232千円
投資有価証券評価損	119千円	3,600千円
ゴルフ会員権評価損	7,543千円	6,304千円
その他	-千円	931千円
小計	176,540千円	161,037千円
評価性引当額	140,850千円	126,739千円
繰延税金負債(固定)との相殺	3,513千円	5,907千円
計	32,176千円	28,390千円
繰延税金資産合計	126,447千円	153,282千円
繰延税金負債		
固定負債		
その他有価証券評価差額金	3,513千円	5,907千円
繰延税金資産(固定)との相殺	3,513千円	5,907千円
繰延税金資産(負債)の純額	126,447千円	153,282千円

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	94,270千円	124,892千円
固定資産 - 繰延税金資産	32,176千円	28,390千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	42.0%	40.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.2%	2.9%
住民税均等割額	1.0%	1.3%
役員賞与引当金	2.0%	1.8%
評価性引当額	1.6%	2.0%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-%	3.8%
その他	0.4%	0.8%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	49.2%	51.6%

### 3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律（平成23年法律第114号）及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法（平成23年法律第117号）が平成23年12月2日に公布されたこと及び当連結会計年度中に資本金が1億円超となり、外形標準課税適用法人になったことに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算（ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は42.0%から回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは38.0%、平成27年4月1日以降のものについては35.6%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額が16,486千円減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が17,548千円、その他有価証券評価差額金額が1,062千円、それぞれ増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社のセグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、部・本部・事業部を基礎とした取扱商品・サービス別に区分したセグメントから構成されており、「切削工具事業」、「耐摩工具事業」、「海外事業」及び「光製品事業」の4つの報告セグメントに区分されております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「切削工具事業」は、国内向けに切削工具、保持工具、測定機器、工作機械等を販売しております。

「耐摩工具事業」は、国内向けに製缶工具および破砕刃を販売しております。

「海外事業」は、海外向けに切削工具、製缶工具、保持工具、測定機器、工作機械等を販売しております。

「光製品事業」は、光ファイバーの販売を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値です。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)	連結財務諸表 計上額
	切削工具事業	耐摩工具事業	海外事業	光製品事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	9,605,733	2,142,734	1,045,448	779,859	13,573,775	-	13,573,775
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	10,452	-	10,452	10,452	-
計	9,605,733	2,142,734	1,055,901	779,859	13,584,227	10,452	13,573,775
セグメント利益 又は損失( )	193,214	165,123	65,345	68,080	361,073	473	360,599
セグメント資産	4,131,497	913,946	781,962	327,512	6,154,918	2,386,689	8,541,608
その他の項目							
減価償却費	4,290	444	3,561	404	8,700	34,802	43,503
のれん償却額	8,770	-	-	-	8,770	4,615	13,385
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	2,617	1,053	2,466	170	6,308	43,093	49,402

(注) 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額 473千円は、セグメント間取引消去によるものであります。

(2) セグメント資産の調整額2,386,689千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない本社土地であります。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					調整額 (注)	連結財務諸表 計上額
	切削工具事業	耐摩工具事業	海外事業	光製品事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	10,480,232	2,338,781	1,398,421	683,196	14,900,633	-	14,900,633
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	21,994	-	21,994	21,994	-
計	10,480,232	2,338,781	1,420,415	683,196	14,922,627	21,994	14,900,633
セグメント利益 又は損失（ ）	343,613	219,123	19,960	31,152	511,623	714	510,908
セグメント資産	4,255,528	945,767	1,066,878	285,558	6,553,732	2,581,301	9,135,033
その他の項目							
減価償却費	6,617	1,145	4,007	1,925	13,696	39,614	53,311
のれん償却額	8,770	-	-	-	8,770	-	8,770
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	5,602	1,778	5,305	428	13,114	21,210	34,325

(注) 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額 714千円は、セグメント間取引消去によるものであります。

(2) セグメント資産の調整額2,581,301千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない本社土地であります。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

売上の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

売上の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					調整額	連結財務諸表 計上額
	切削工具事業	耐摩工具事業	海外事業	光製品事業	合計		
当期末残高	26,311	-	-	-	26,311	-	26,311

（注） のれん償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	切削工具事業	耐摩工具事業	海外事業	光製品事業	計		
当期末残高	17,540	-	-	-	17,540	-	17,540

（注） のれん償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員	柳川 重昌	-	-	当社代表取締役社長	(被所有) 直接 32.2(注)2	債務被保証	当社仕入債務に対する債務被保証(注)1	1,672,371	-	-

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注)1 当社は、特定仕入先の債務に対して代表取締役柳川重昌より債務保証を受けております。なお、保証料の支払いは行っておりません。また、平成24年1月17日付で当該債務保証取引は解消されております。

2 議決権等の所有割合には、関連当事者の二親等内の親族が所有する議決権等を含んでおります。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	997円72銭	962円20銭
1株当たり当期純利益金額	61円54銭	87円84銭

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 2 当社は、平成23年11月26日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

(会計方針の変更)

当連結会計年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分)及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第9号 平成22年6月30日)を適用しております。この適用により、当連結会計年度に行った株式分割は、前連結会計年度の期首に行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

これらの会計基準等を適用しなかった場合の、前連結会計年度の1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額は、以下のとおりです。

- 1株当たり純資産額 3,990円91銭  
 1株当たり当期純利益金額 246円19銭

- 3 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(千円)	153,032	224,899
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	153,032	224,899
普通株式の期中平均株式数(株)	2,486,320	2,560,069

- 4 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	2,492,885	3,315,692
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	12,212	11,082
(うち少数株主持分)(千円)	(12,212)	(11,082)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	2,480,672	3,304,610
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	2,486,320	3,434,420

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率 (%)	担保	償還期限
大阪工機(株)	第2回 無担保社債	平成21年 2月27日	300,000	200,000 (100,000)	0.89	無担保社債	平成26年 2月28日
合計	-	-	300,000	200,000 (100,000)	-	-	-

(注) 1 「当期末残高」欄の(内書)は、1年内償還予定の金額であります。

2 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額は次のとおりであります。

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
100,000	100,000	-	-	-

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,156,579	1,061,694	0.7	
1年以内に返済予定の長期借入金	225,565	136,040	1.2	
1年以内に返済予定のリース債務	1,760	940	3.8	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	180,467	216,610	1.1	平成25年7月31日～ 平成29年2月28日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	985	44	4.5	平成26年4月30日
その他有利子負債	-	-		
合計	1,565,357	1,415,329		

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	86,710	60,040	40,040	29,820
リース債務	41	3	-	-

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	-	-	10,946,886	14,900,633
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額 (千円)	-	-	327,271	464,994
四半期(当期) 純利益金額 (千円)	-	-	168,618	224,899
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	67.45	87.84

(注) 1 当社は、平成24年3月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しております。そのため、第1四半期及び第2四半期の数値については記載しておりません。

2 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

2【財務諸表等】  
(1)【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	457,587	642,744
受取手形	1,064,363	<sup>4</sup> 1,051,247
売掛金	<sup>1</sup> 1,899,832	<sup>1</sup> 1,990,481
商品	2,751,461	2,918,958
前渡金	1,338	1,708
前払費用	56,266	59,081
繰延税金資産	93,792	124,797
短期貸付金	56,190	68,740
未収入金	162,154	189,958
その他	13,769	3,531
貸倒引当金	31,060	32,377
流動資産合計	6,525,694	7,018,872
固定資産		
有形固定資産		
建物	844,568	849,117
減価償却累計額	487,057	509,093
建物(純額)	<sup>2</sup> 357,510	<sup>2</sup> 340,024
構築物	7,103	7,103
減価償却累計額	4,456	4,878
構築物(純額)	<sup>2</sup> 2,647	<sup>2</sup> 2,225
車両運搬具	36,971	36,101
減価償却累計額	31,009	31,303
車両運搬具(純額)	5,962	4,798
工具、器具及び備品	101,933	108,698
減価償却累計額	69,519	83,127
工具、器具及び備品(純額)	32,413	25,571
土地	<sup>2</sup> 1,020,338	<sup>2</sup> 1,020,338
有形固定資産合計	1,418,872	1,392,958
無形固定資産		
のれん	26,311	17,540
ソフトウェア	16,659	23,490
リース資産	2,432	844
その他	6,726	6,726
無形固定資産合計	52,130	48,602

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	2 90,502	2 95,526
関係会社株式	99,315	133,086
出資金	76	76
長期貸付金	2,000	-
繰延税金資産	32,176	28,390
保険積立金	125,488	151,894
破産更生債権等	618	3,522
その他	2 71,890	2 69,052
貸倒引当金	14,643	15,994
投資その他の資産合計	407,424	465,554
固定資産合計	1,878,427	1,907,115
<b>繰延資産</b>		
社債発行費	3,989	2,581
繰延資産合計	3,989	2,581
資産合計	8,408,111	8,928,569
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	2 2,333,703	2, 4 2,210,166
買掛金	2 1,235,760	2 1,163,961
短期借入金	2, 5 1,150,000	2, 5 1,050,000
1年内償還予定の社債	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	2 225,565	2 136,040
リース債務	1,760	940
未払費用	110,841	164,372
未払法人税等	133,293	177,702
前受金	507	6,340
預り金	5,531	6,661
賞与引当金	111,240	127,067
役員賞与引当金	14,385	20,223
その他	4,000	38,991
流動負債合計	5,426,589	5,202,466
<b>固定負債</b>		
社債	200,000	100,000
長期借入金	2 180,467	2 216,610
リース債務	985	44
退職給付引当金	84,376	91,500
役員退職慰労引当金	95,583	108,208
その他	2,000	2,000
固定負債合計	563,411	518,362
負債合計	5,990,001	5,720,829

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	40,790	350,198
資本剰余金		
資本準備金	20,790	330,198
資本剰余金合計	20,790	330,198
利益剰余金		
利益準備金	7,500	7,500
その他利益剰余金		
別途積立金	2,000,000	2,000,000
繰越利益剰余金	344,178	509,157
利益剰余金合計	2,351,678	2,516,657
株主資本合計	2,413,258	3,197,053
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,851	10,686
評価・換算差額等合計	4,851	10,686
純資産合計	2,418,110	3,207,740
負債純資産合計	8,408,111	8,928,569

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>売上高</b>		
商品売上高	12,611,072	13,923,530
売上高合計	12,611,072	13,923,530
<b>売上原価</b>		
商品期首たな卸高	2,258,065	2,751,461
当期商品仕入高	10,843,372	11,445,597
合計	13,101,438	14,197,058
他勘定振替高	35,045	1,019
商品期末たな卸高	2,751,461	2,918,958
売上原価	<sup>1</sup> 10,314,931	<sup>1</sup> 11,277,081
<b>売上総利益</b>	2,296,141	2,646,449
販売費及び一般管理費	<sup>2</sup> 1,948,573	<sup>2</sup> 2,195,542
<b>営業利益</b>	347,567	450,906
<b>営業外収益</b>		
受取利息	4,276	2,455
受取配当金	986	1,329
仕入割引	32,940	46,332
為替差益	-	9,869
その他	10,064	8,510
営業外収益合計	48,267	68,498
<b>営業外費用</b>		
支払利息	15,538	15,000
社債利息	3,242	2,371
社債発行費償却	1,407	1,407
売上割引	17,506	22,415
手形売却損	3,936	5,236
支払手数料	8,975	8,079
株式公開費用	-	30,160
株式交付費	-	7,318
その他	11,988	8,047
営業外費用合計	62,596	100,038
<b>経常利益</b>	333,238	419,366
<b>特別利益</b>		
抱合せ株式消滅差益	40,197	-
特別利益合計	40,197	-
<b>特別損失</b>		
投資有価証券評価損	3,363	9,830
抱合せ株式消滅差損	22,197	-
災害による損失	<sup>3</sup> 36,070	-
特別損失合計	61,631	9,830
<b>税引前当期純利益</b>	311,804	409,536
法人税、住民税及び事業税	167,014	251,794
法人税等調整額	23,719	29,612
法人税等合計	143,294	222,181
<b>当期純利益</b>	168,509	187,355

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	40,790	40,790
当期変動額		
新株の発行	-	309,408
当期変動額合計	-	309,408
当期末残高	40,790	350,198
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
当期首残高	20,790	20,790
当期変動額		
新株の発行	-	309,408
当期変動額合計	-	309,408
当期末残高	20,790	330,198
<b>資本剰余金合計</b>		
当期首残高	20,790	20,790
当期変動額		
新株の発行	-	309,408
当期変動額合計	-	309,408
当期末残高	20,790	330,198
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
当期首残高	7,500	7,500
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	7,500	7,500
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>別途積立金</b>		
当期首残高	2,000,000	2,000,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,000,000	2,000,000
<b>繰越利益剰余金</b>		
当期首残高	191,208	344,178
当期変動額		
剰余金の配当	15,539	22,376
当期純利益	168,509	187,355
当期変動額合計	152,969	164,978
当期末残高	344,178	509,157
<b>利益剰余金合計</b>		
当期首残高	2,198,708	2,351,678
当期変動額		
剰余金の配当	15,539	22,376
当期純利益	168,509	187,355
当期変動額合計	152,969	164,978

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
当期末残高	2,351,678	2,516,657
株主資本合計		
当期首残高	2,260,288	2,413,258
当期変動額		
新株の発行	-	618,816
剰余金の配当	15,539	22,376
当期純利益	168,509	187,355
当期変動額合計	152,969	783,795
当期末残高	2,413,258	3,197,053
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	2,697	4,851
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	7,549	5,835
当期変動額合計	7,549	5,835
当期末残高	4,851	10,686
評価・換算差額等合計		
当期首残高	2,697	4,851
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	7,549	5,835
当期変動額合計	7,549	5,835
当期末残高	4,851	10,686
純資産合計		
当期首残高	2,257,591	2,418,110
当期変動額		
新株の発行	-	618,816
剰余金の配当	15,539	22,376
当期純利益	168,509	187,355
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	7,549	5,835
当期変動額合計	160,518	789,630
当期末残高	2,418,110	3,207,740

## 【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法
  - (1) 子会社株式及び関連会社株式  
移動平均法による原価法
  - (2) その他有価証券  
時価のあるもの  
決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)  
時価のないもの  
移動平均法による原価法
2. デリバティブ取引により生じる正味の債権(及び債務)の評価基準及び評価方法  
時価法
3. たな卸資産の評価基準及び評価方法  
商品  
移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法)
4. 固定資産の減価償却の方法
  - (1) 有形固定資産(リース資産を除く)  
定率法によっております。  
ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法によっております。  
なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	8～50年
構築物	10～20年
車両運搬具	4～6年
工具、器具及び備品	3～20年
  - (2) 無形固定資産(リース資産を除く)  
定額法によっております。  
なお、のれんについては、5年間の均等償却によっております。  
また、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。
  - (3) リース資産  
所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。
5. 繰延資産の処理方法
  - (1) 社債発行費  
社債の償還期間(5年)で均等償却をしております。
  - (2) 株式交付費  
支出時に全額費用処理しております。
6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準  
外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
7. 引当金の計上基準
  - (1) 貸倒引当金  
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
  - (2) 賞与引当金  
従業員に対して支給する賞与に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。
  - (3) 役員賞与引当金  
役員に対して支給する賞与に充てるため、当事業年度に見合う支給見込額に基づき計上しております。
  - (4) 退職給付引当金  
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の額に基づき計上しております。なお、当事業年度末における退職給付債務の算定にあたっては、自己都合退職による当事業年度末要支給額を退職給付債務とする方法(簡便法)によって計上しております。
  - (5) 役員退職慰労引当金  
役員の退職慰労金の支給に備えるため、役員退職慰労金規則に基づく期末要支給額を計上しております。
8. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項  
消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

**【会計方針の変更】**

当事業年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号 平成22年6月30日）、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分）及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第9号 平成22年6月30日）を適用しております。

当事業年度において株式分割を行いました。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

**【追加情報】**

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

## 【注記事項】

(貸借対照表関係)

## 1 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
売掛金	50,901千円	100,610千円

## 2 担保に供している資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は以下のとおりであります。

担保に供している資産

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
建物	302,203千円	289,399千円
構築物	1,812千円	1,509千円
土地	936,047千円	936,047千円
投資有価証券	16,600千円	16,883千円
その他(投資その他の資産)	14,000千円	14,000千円
計	1,270,664千円	1,257,840千円

担保付債務

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
支払手形	1,115,056千円	1,131,880千円
買掛金	506,693千円	456,780千円
短期借入金	822,000千円	746,000千円
1年内返済予定の長期借入金	141,418千円	80,000千円
長期借入金	85,000千円	105,000千円
計	2,670,168千円	2,519,661千円

## 3 偶発債務

下記の関係会社の金融機関からの借入金に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
中阪貿易(上海)有限公司	-	12,407千円

## 4 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形	-	64,276千円
支払手形	-	35,332千円

## 5 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行8行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これら契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	3,140,000千円	3,140,000千円
借入実行残高	1,150,000千円	1,050,000千円
差引額	1,990,000千円	2,090,000千円

(損益計算書関係)

1 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上原価	80,226千円	108,771千円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
給料及び賞与	790,273千円	857,330千円
賞与引当金繰入額	111,240千円	127,067千円
役員賞与引当金繰入額	14,385千円	20,223千円
退職給付費用	33,178千円	30,906千円
役員退職慰労引当金繰入額	11,125千円	12,625千円
貸倒引当金繰入額	7,814千円	5,107千円
減価償却費	39,535千円	49,830千円
のれん償却額	9,000千円	8,770千円
荷造運賃	117,716千円	116,564千円
法定福利費	150,071千円	171,645千円
地代家賃	91,049千円	111,486千円
おおよその割合		
販売費	61%	61%
一般管理費	39%	39%

3 災害による損失は、東日本大震災によるもので、その内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
商品廃棄損	34,570千円	-
修繕費	1,500千円	-

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

自己株式に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

自己株式に関する事項

該当事項はありません。

(リース取引関係)

(借主側)

1 ファイナンス・リース取引

所有権移転ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

無形固定資産

主として、販売管理用ソフトウェアであります。

(2) リース資産の減価償却の方法

「重要な会計方針4 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額 相当額	期末残高相当額
車両運搬具	6,436	5,163	1,272
工具、器具及び備品	82,971	59,628	23,342
ソフトウェア	4,855	3,818	1,037
合計	94,263	68,610	25,652

(単位：千円)

	当事業年度 (平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額 相当額	期末残高相当額
車両運搬具	3,492	3,142	350
工具、器具及び備品	76,654	67,820	8,833
ソフトウェア	4,553	4,523	30
合計	84,700	75,485	9,215

(2) 未経過リース料期末残高相当額

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年内	17,628	9,620
1年超	10,222	685
合計	27,851	10,305

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
支払リース料	22,890	18,503
減価償却費相当額	20,300	16,372
支払利息相当額	1,793	904

(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

・リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年内	17,298	16,088
1年超	22,350	29,731
合計	39,648	45,820

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

(単位：千円)

区分	平成23年 3 月31日	平成24年 3 月31日
子会社株式	99,315	133,086
関連会社株式	-	-
合計	99,315	133,086

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

## (税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
流動資産		
賞与引当金	46,721千円	48,285千円
たな卸資産評価損	26,791千円	43,145千円
未払事業税	11,837千円	12,416千円
未払費用	8,442千円	12,033千円
貸倒引当金	-	8,917千円
計	93,792千円	124,797千円
固定資産		
退職給付引当金	35,438千円	32,574千円
役員退職慰労引当金	40,144千円	38,522千円
減損損失	87,152千円	73,871千円
貸倒引当金	6,142千円	5,232千円
ゴルフ会員権評価損	7,543千円	6,304千円
投資有価証券評価損	119千円	3,600千円
一括償却資産	-	931千円
小計	176,540千円	161,037千円
評価性引当額	140,850千円	126,739千円
繰延税金負債(固定)との相殺	3,513千円	5,907千円
計	32,176千円	28,390千円
繰延税金資産合計	125,968千円	153,187千円
繰延税金負債		
固定負債		
その他有価証券評価差額金	3,513千円	5,907千円
繰延税金資産(固定)との相殺	3,513千円	5,907千円
計	-	-

## 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	42.0%	40.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.1%	3.8%
住民税均等割額	1.0%	1.5%
役員賞与引当金	1.9%	2.0%
株式消滅差益	1.8%	-
評価性引当額	1.6%	2.2%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	4.3%
その他	0.8%	0.1%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	46.0%	54.3%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律（平成23年法律第114号）及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法（平成23年法律第117号）が平成23年12月2日に公布されたこと及び当事業年度中に資本金が1億円超となり、外形標準課税適用法人になったことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算（ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は42.0%から回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは38.0%、平成27年4月1日以降のものについては35.6%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額が16,486千円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が17,548千円、その他有価証券評価差額金が1,062千円、それぞれ増加しております。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	972円56銭	933円99銭
1株当たり当期純利益金額	67円77銭	73円18銭

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 2. 当社は、平成23年11月26日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

(会計方針の変更)

当事業年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分)及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第9号 平成22年6月30日)を適用しております。この適用により、当事業年度に行った株式分割は、前事業年度の期首に行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

これらの会計基準等を適用しなかった場合の、前事業年度の1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額は以下のとおりです。

1株当たり純資産額 3,890円26銭  
 1株当たり当期純利益金額 271円09銭

3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
当期純利益(千円)	168,509	187,355
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	168,509	187,355
普通株式の期中平均株式数(株)	2,486,320	2,560,069

4. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	2,418,110	3,207,740
普通株式に係る純資産額(千円)	2,418,110	3,207,740
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	2,486,320	3,434,420

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	
投資有価証券	その他有価証券	(株)不二越	86,367	41,024
		住友電気工業(株)	19,441	22,026
		東洋製罐(株)	10,000	11,870
		山九(株)	16,516	5,351
		オーエスジー(株)	4,000	5,008
		(株)T&Dホールディングス	3,000	2,877
		(株)IHI	10,652	2,226
		フルサト工業(株)	1,850	1,591
		ユアサ商事(株)	7,000	1,008
		アサヒツール(株)	10	1,000
		その他3銘柄	3,563	1,543
計		162,401	95,526	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	844,568	5,194	645	849,117	509,093	22,527	340,024
構築物	7,103	-	-	7,103	4,878	421	2,225
車両及び運搬具	36,971	2,482	3,351	36,101	31,303	3,412	4,798
工具、器具及び備品	101,933	7,278	513	108,698	83,127	14,119	25,571
土地	1,020,338	-	-	1,020,338	-	-	1,020,338
有形固定資産計	2,010,915	14,955	4,510	2,021,361	628,402	40,481	1,392,958
無形固定資産							
のれん	66,928	-	-	66,928	49,387	8,770	17,540
ソフトウェア	27,954	14,591	-	42,545	19,055	7,761	23,490
リース資産	24,072	-	-	24,072	23,227	1,587	844
その他	6,726	-	-	6,726	-	-	6,726
無形固定資産計	125,681	14,591	-	140,273	91,670	18,119	48,602
長期前払費用	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産							
社債発行費	7,039	-	-	7,039	4,458	1,407	2,581
繰延資産計	7,039	-	-	7,039	4,458	1,407	2,581

(注) 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

【建物】	広島支店改修工事	2,750千円
【車両運搬具】	営業車両の購入	2,482千円
【工具器具備品】	パソコンの購入	4,886千円
【ソフトウェア】	Cominix On-Line 機能強化	7,865千円

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	45,704	36,217	2,439	31,109	48,372
賞与引当金	111,240	127,067	111,240	-	127,067
役員賞与引当金	14,385	20,223	14,385	-	20,223
役員退職慰労引当金	95,583	12,625	-	-	108,208

(注) 1 計上の理由及びその額の算定方法は「重要な会計方針」に記載のとおりであります。

2 貸倒引当金の当期減少額のうち、31,060千円は一般債権の貸倒実績率による洗替額であり、49千円は債権回収等による取崩額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	10,186
預金	
当座預金	631,439
普通預金	1,119
計	632,558
合計	642,744

受取手形  
 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)三和精密	61,636
田村産業(株)	48,254
タカノ(株)	42,774
荻野工業(株)	42,196
(株)エヌエスシィ	34,667
その他	821,718
合計	1,051,247

期日別内訳

期日	金額(千円)
平成24年3月満期	64,276
平成24年4月満期	113,140
平成24年5月満期	52,723
平成24年6月満期	390,347
平成24年7月満期	318,745
平成24年8月満期	109,279
平成24年9月以降満期	2,735
合計	1,051,247

売掛金  
相手先別内訳

相手先	金額(千円)
東洋食品機械(株)	114,235
東洋製罐(株)	107,317
中阪貿易(上海)有限公司	43,601
三星ダイヤモンド工業(株)	35,898
COMINIX(PHILIPPINES), INC.	32,386
その他	1,657,041
合計	1,990,481

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	(C) (A) + (B) × 100	(A) + (D) 2 (B) 366
1,899,832	14,580,842	14,490,193	1,990,481	87.9	48.8

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

商品

区分	金額(千円)
切削工具	2,688,412
その他	230,545
合計	2,918,958

支払手形  
相手先別内訳

相手先	金額(千円)
住友電気工業(株)	1,096,034
菱精機(株)	134,256
住友電工ツールネット(株)	76,751
(株)住田光学ガラス	61,842
(株)イシイコーポレーション	56,318
その他	784,962
合計	2,210,166

期日別内訳

期日	金額(千円)
平成24年3月満期	35,332
平成24年4月満期	548,908
平成24年5月満期	478,716
平成24年6月満期	482,049
平成24年7月満期	498,147
平成24年8月満期	167,010
平成24年9月以降満期	-
合計	2,210,166

買掛金  
 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
住友電気工業(株)	347,548
イスカルジャパン(株)	95,569
葵精機(株)	65,822
ケナメタルジャパン(株)	50,485
セコ・ツールズ・ジャパン(株)	38,593
その他	565,943
合計	1,163,961

短期借入金

区分	金額(千円)
(株)三菱東京UFJ銀行	340,000
(株)三井住友銀行	238,000
(株)みずほ銀行	102,000
三菱UFJ信託銀行(株)	102,000
(株)近畿大阪銀行	100,000
(株)池田泉州銀行	100,000
(株)りそな銀行	68,000
合計	1,050,000

(3)【その他】  
 該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	無料
公告掲載方法	当会社の公告は、電子公告により行う。やむを得ない事由により、電子公告によること ができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行う。 電子公告掲載URL <a href="http://www.osk-k.co.jp/">http://www.osk-k.co.jp/</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨を定款に定めております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 取得請求権付株式の取得を請求する権利
- (3) 募集株式または募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券届出書及びその添付書類

有償一般募集増資（ブックビルディング方式による募集）及び株式売出し（ブックビルディング方式による売出し）

平成24年2月6日近畿財務局長に提出。

#### (2) 有価証券届出書の訂正届出書

訂正届出書（上記(1)有価証券届出書の訂正届出書）

平成24年2月21日及び平成24年2月29日近畿財務局長に提出。

#### (3) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号（主要株主の異動）の規定に基づく臨時報告書

平成24年3月9日近畿財務局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年 6月29日

大阪工機株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 日根野谷 正 人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 黒 木 賢 一 郎

### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている大阪工機株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大阪工機株式会社及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、大阪工機株式会社の平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、大阪工機株式会社が平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

## 独立監査人の監査報告書

平成24年6月29日

大阪工機株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 日根野谷 正 人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 黒 木 賢 一 郎

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている大阪工機株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第63期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大阪工機株式会社の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。